

w e b データ編

2007

社会・環境報告書

Social & Environmental Report





2007

「2007 社会・環境報告書 webデータ編」目次

項目	掲載内容	ページ
目次		1
社会・環境への取り組みの歴史	社会・環境への取り組みの歴史-1(1973~2001年)	2
	社会・環境への取り組みの歴史-2(2002~2007年)	3
会社概要	当社概要、各拠点・関係会社所在地など	4,5
	経済指標データ	6
	雇用関係データ	7
環境マネジメントデータ (2006年度実績)	当社の環境保全取り組み組織体制	8
	〃 環境パフォーマンスデータ	9,10
	環境会計集計結果 (1) 当社(単独)環境コストおよび効果の集計結果	11
	(2) 国内関係会社(6社) ^{*1} 環境コストおよび効果の集計結果	12
	(3) 海外関係会社(4社) ^{*2} 環境コストおよび効果の集計結果	13
	環境測定データ (1) 群馬製作所	14,15
	(2) 宇都宮製作所	16,17
	(3) 埼玉製作所	18
	(4) 東京事業所	19
	(5) 国内関係会社(6社)	20,21
社会・環境への地域での取り組み	群馬製作所	22,23
	宇都宮製作所	24,25
	埼玉製作所	26,27
	東京事業所	28
	本社地区	29
	国内関係会社	30,31

*1 国内関係会社(6社)とは、国内関連企業部に参画している富士ロビン(株)、輸送機工業(株)、富士機械(株)、(株)イチタン、桐生工業(株)、(株)スバルロジスティクスの6社をいいます。
 なお、富士ロビン(株)につきましては、(株)マキタによる株式公開買い付けに対し、当社の保有する富士ロビン(株)の全株(7,525千株)を応募し、2007年5月15日に売却いたしました。

*2 海外関係会社(4社)とは、北米環境委員会に参画し、環境会計集計を実施しているSIA、SOA、SCI、SRDの4社をいいます。

SIA:Subaru of Indiana Automotive, Inc. SOA:Subaru of America, Inc.
 SCI:Subaru Canada, Inc. SRD:Subaru Research & Development, Inc.

■ 社会・環境への取り組みの歴史－1（1973年～2001年）

	マネジメント部門	自動車部門	自動車以外の部門
1973年 8月		樹脂材料の材料表示規定制定（業界ガイドラインは1991年に決定）	
1985年10月			電動式塵芥収集車「EV405」を開発
1987年 2月		世界で初めて自動車用電子制御式無段変速機「スバル ECVT」を実用化、市場に導入	
1990年 8月	「環境問題改善対策プロジェクト」発足	全国スバル特約店にカーエアコン用フロンガス回収、再利用装置の設備を開始	
1991年 4月	「SEF委員会」発足。Safety:安全、Emission:排出ガス、Fuel economy:燃費		
10月	「リサイクル委員会」発足。（1997年に「リサイクル技術開発委員会」、1999年に「リサイクル推進委員会」に改称）	フレキシブル燃料エンジンを東京モーターショーにて発表	
1992年 4月	「環境安全技術部」発足		OHVエンジン搭載発電機3型式を発表（2KW、2.8KW、4.1KW）
5月		塗装済みバンパーの内外装部品へのリサイクルに自動車業界で初めて成功	
11月		特約店へのカーエアコン用フロンガス回収、再利用装置の配置を完了	
1993年 1月		物流会社と共同で、東京、神奈川地区より使用済みバンパーの回収を開始	
3月	「地球環境保護に関する取り組み計画」制定 「総合環境委員会」発足 「SEF委員会」を発展させて「技術環境委員会」「工場環境委員会」発足		
1994年 4月		カーエアコンの冷媒をCFC12からHFC134aに切り替え完了	
1995年 1月			CARB排出ガス規則対応汎用エンジン生産を開始
4月		電気自動車「サンバーEV」を発売	
6月		環境にやさしい新塗膜保護剤を開発。「レガシィ」「インプレッサ」に本格採用	
8月			低公害CNG塵芥収集車を納入開始
9月			全国初のごみ鉄道貨物輸送のため、ごみ輸送用コンテナ及びコンテナ輸送車両を川崎市に納入
10月		筒内噴射エンジン、ハイブリッド・カーを東京モーターショーにて発表	
1996年 2月		新塗膜剥離技術「ロール圧延法」を開発、実用化し、バンパーからバンパーへのリサイクルを開始	
4月	「地球環境に関する2000年計画」策定		
10月			ごみ有料化に対応した「コンテナ収集計量システム」を開発販売
7月	「環境総合推進室」発足		焼却灰溶融プラントを開発
9月			高層ビルごみ分別搬送システム「ヒュー・ストン」を初納入
1998年 2月	「使用済自動車リサイクルイニシアティブ自主行動計画」策定		
4月	「環境方針」を策定		
6月	環境パンフレット「人と社会と地球の調和を目指して」を発行		
10月		自工会のシステムを活用した特定フロン（CFC12）の回収・破壊取り組みの全国展開終了	2サイクルエンジン代替のランマ-用4サイクルOHVエンジンを発表（EH09D）
11月	スバル・いすゞオートモーティブインク（SIA、米国）においてISO14001を認証取得		
1999年 3月	群馬製作所においてISO14001を認証取得		
5月	埼玉製作所においてISO14001を認証取得		
6月		ペットボトルの内装部品へのリサイクル開始	
7月	宇都宮製作所・車両環境事業本部ISO14001を認証取得 第1回関連企業環境問題連絡会議を開催		
10月	群馬製作所に「環境部長会」発足		
2000年 1月		生産工程で発生した塗装済みバンパー廃材を「プレオ」の量産バンパー材料に再利用開始	
3月	東京事業所の焼却炉を停止	使用済みバンパー回収を東北地区にも拡大し、全国体制を構築	高層ビルごみ分別搬送システム「ヒュー・ストン」が平成11年度通産省環境立地局長賞を受賞
8月		新型「インプレッサ」発売、全モデルが低排出ガス車の認定基準を達成	
9月	1999年度の環境保全の実績をまとめた環境報告書を発行		
10月		廃車から回収した窓ガラスをグラスウール防音材にリサイクルを開始	
11月			・スバル小型風力発電システムを公開 ・低騒音新型塵芥収集「LPO」型を発売
12月	群馬製作所矢島工場の焼却炉を停止		
2001年 3月	群馬製作所でゼロエミッションを達成		
5月			ロビン汎用エンジンEXシリーズを発売、低排出ガス、低騒音化、低振動化を図る
6月	2000年度の環境保全の実績をまとめた環境報告書を発行		
9月	宇都宮製作所の焼却炉を停止 埼玉製作所の焼却炉を停止		
10月		東京モーターショーに次世代ハイブリッドミニ「HM-01」出展	

（注）鉄道車両およびバスについては「2003 環境報告書」58～59ページをご参照下さい。

■ 社会・環境への取り組みの歴史 ② 2002年～2007年

	マネジメント部門	自動車部門	自動車以外の部門
2002年 1月			スバル小型風力発電システム平成13年度新エネ大賞「資源エネルギー庁長賞」を受賞
2月		新型「フォレスター」を発売、全モデルが2010年度燃費基準を達成するとともに良・低排出ガス車(GLEV)に認定される	
3月	宇都宮製作所、埼玉製作所においてゼロエミッションを達成		
5月	「環境保全取り組み計画(2002年度～2006年度)」を公表	NEC・富士重工業の共同出資による自動車用電池開発会社を設立	
6月	「2002環境報告書」を発行		
7月		フロン引取・破壊に関わる業務を(財)自動車リサイクル促進センターに委託	
10月		レガシィB4CNG(天然ガス自動車)を限定的に市場導入	
11月			航空機定期修理における無公害塗装剥離剤への転換について「防衛調達基盤整備協会賞」を受賞
2003年 4月	埼玉製作所においてISO14001定期審査受審		「ASR前処理分別システム」を開発
5月		レガシィをフルモデルチェンジ「NEWレガシィ」を発売 2.0 GSpec、Bを除く全モデルで2010年燃費基準を達成 2.0L SOHCエンジン搭載車で平成12年基準排出ガス75%低減レベルを達成	「無公害塗装剥離剤の開発」が(社)日本航空技術協会の協会特別賞を受賞
6月	「2003環境報告書」を発行 宇都宮製作所においてISO14001定期審査を受審		
7月	六連星をコーポレートシンボルに設定		㈱オキハラと共同開発した「焼却灰溶融炉」が(財)廃棄物研究財団の技術認定を取得
	群馬製作所矢島工場にスバルビジターセンターを開設		
8月		レガシィB4CNG日本一周に挑戦 スバルモビリティ技術プレゼンテーション実施	
9月	東京事業所においてゼロエミッションを達成		
10月	平成15年度リデュース・リユース・リサイクル(3R)推進 功労者等表彰において、群馬製作所が会長賞を受賞	シーケンシャルシリーズハイブリッドのシステムを公開 スバルブランドメッセージ「Think, Feel, Drive」を設定	
11月		レガシィ 2003-2004 日本カー・オブ・ザ・イヤー受賞	
12月		自動車部品の新加工技術「ハードブローチ工法」を開発 新型軽自動車「スバルR2」を発売。24.0km/L(10-15モード)燃費を実現し(R)、平成12年基準排出ガス75%低減レベルを達成(Rとi)	
2004年 1月	本社、東京事業所がISO14001認証取得		
5月			産機カンパニー(V型2気筒エンジン)がカムンス社からサプライヤー・オブ・ザ・イヤー受賞
6月	「2004環境・社会報告書」を発行		
9月		スバル、日本初開催のWRC「ラリージャパン2004」にて優勝	
11月	身障者雇用優良事業所表彰受賞	群馬製作所の塗料カスリサイクル工場が「資源循環技術・システム表彰」受賞 スバル R2 2005年次RJCカー・オブ・ザ・イヤー特別賞ベスト軽乗用車 受賞	
12月		福祉車両スバルトランスケアをR1およびインプレッサに新設定、R2およびサンバーに追加モデル設定	
2005年 1月	東京都八王子市に「スバルアカデミー」を開設	自動車リサイクル法に対応した「スバル自動車リサイクルシステム」を稼働	
2月			宇都宮製作所において「天然ガスエンジンコージェネレーションシステム」稼働
3月	部品センター(太田市)がISO14001取得(群馬製作所拡大認証) 部品部門(さいたま市)がISO14001取得(本社拡大認証)	スバル車の国内新車販売累計台数1,000万台を達成 レガシィが世界累計生産台数300万台を達成	
5月	企業の社会的責任に対する考え方を「CSR方針」として明確化		新型塵芥収集車「フジマイティ-LP71型シリーズ」販売開始
6月	富士重工グループにおける「環境シンボルマーク」を制定 「2005 環境 社会報告書」を発行		
7月	「チーム・マイナス6%」へ参加		
10月		スバルR1が(財)日本産業デザイン振興会主催「2005グッドデザイン賞」受賞	
11月		スバルR1、R2シリーズを一部改良し、自然吸気エンジンの平成17年度排出ガス基準75%低減レベルを達成した車種を発売(R2「Refi、R1「S」)	
12月			エコテクノロジーカンパニー:茨城県神栖市に2000kW級の大型風力発電システム「SUBARU 80/2.0」試作機を設置し実証実験を開始
2006年 2月	CSR・環境推進室発足		
3月		スバル環境交流会(出前環境教室)が第15回エネルギー広報活動・広報施設賞を受賞	
5月			航空宇宙カンパニー:エクリプス500量産主翼初納入
6月		東京電力(株)と当社で共同開発を行ってきた次世代型電気自動車スバル「R1e」試験車両を完成させ、東京電力の業務用車両として納車 楽しい関係空間、新型軽自動車「ステラ」を発売。22.5km/lの低燃費・グリーン税制適合車(L,LX,R)	
8月	「2006環境・社会報告書」を発行。あわせて第4次環境ボランティアプラン(2007～2011年度)を公表		
9月		バリモーターショーで水平対向ディーゼルエンジンの開発具体化を発表	
11月		レガシィSレターダークルーズコントロール発表・発売	
12月	本社地区においてISO14001更新審査受審	電気自動車スバルR1eが「地球温暖化防止活動環境大臣表彰」を受賞	エコテクノロジーカンパニー:大型風力発電システムが「新エネ大賞資源エネルギー庁長官賞」を受賞 クリーンロボット部:「今年のロボット大賞2006(経済産業大臣賞)」を受賞 産業機器カンパニー:スポーツカート用エンジン「スバルKX21」発売
2007年 1月	東京事業所においてISO14001更新審査受審		航空宇宙カンパニー:ボーイング787中央翼初号機出荷
2月		群馬製作所大泉工場において「天然ガスコージェネレーションシステム」稼働	産業機器カンパニー:充電式草刈機発売

会社概要(2007年3月31日現在)

社名 富士重工業株式会社 (FUJI HEAVY INDUSTRIES LTD.)
 設立 1953年 7月15日
 資本金 1,537億円
 従業員 25,598名(連結) 12,801名(単独)
 本社 〒160-8316
 東京都新宿区西新宿一丁目七番二号 スバルビル
 03-3347-各部署ダイヤル直通
 (番号案内 03-3347-2111)
 売上高 14,948億円(連結) 9,644億円(単独)(2007年3月期)
 経常利益 422億円(連結) 271億円(単独)(2007年3月期)
 連結子会社 国内43社、海外18社 関連会社 国内16社、海外2社

富士重工業株式会社(主要生産拠点の所在地)

スバルオートモーティブビジネス [群馬製作所(群馬県)、東京事業所(三鷹市)]
 航空宇宙カンパニー [宇都宮製作所*(栃木県宇都宮市、愛知県半田市)]
 産業機器カンパニー [埼玉製作所*(埼玉県北本市)]
 エコテクノロジーカンパニー [宇都宮製作所*(栃木県宇都宮市)]

※本報告書では、便宜上、航空宇宙カンパニーとエコテクノロジーカンパニーの生産拠点を「宇都宮製作所」と、また、産業機器カンパニーを「埼玉製作所」と表記している場合があります。

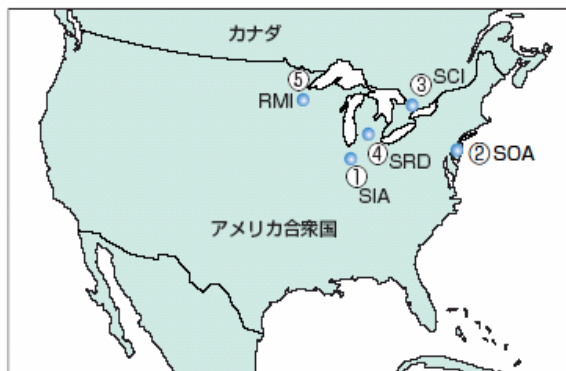
当社各拠点・関係会社所在地(報告対象範囲の当社主要生産拠点および関係会社の所在地を示します)

国内



社名	住所	事業内容
①富士ロビン(株)	静岡県沼津市	農林業機器・エンジン・消防ポンプなどの製造、修理、販売
②輸送機工業(株)	愛知県半田市	宇宙航空機部品・クレーン車等の製造、販売
③富士機械(株)	群馬県前橋市	自動車部品・産業機械・農業用トランスミッションの製造、販売
④(株)イチタン	群馬県太田市	自動車・産業機械用鍛造品の製造、販売
⑤桐生工業(株)	群馬県桐生市	スバル特装車の製造・スバル用部品の物流管理
⑥(株)スバルロジステイクス	群馬県太田市	スバル車およびその部品・用品の物流とそれにかかわる業務

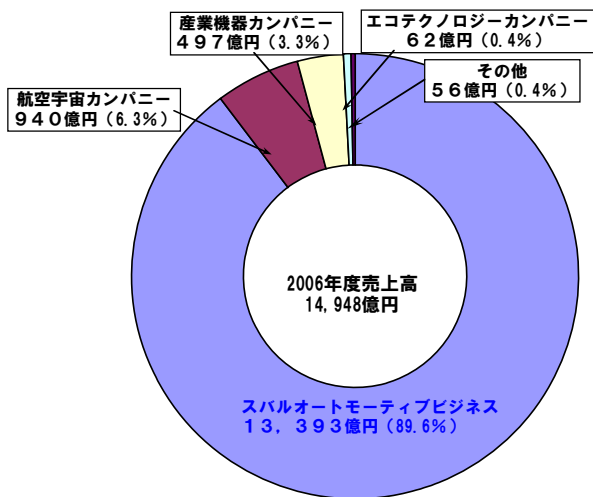
北米



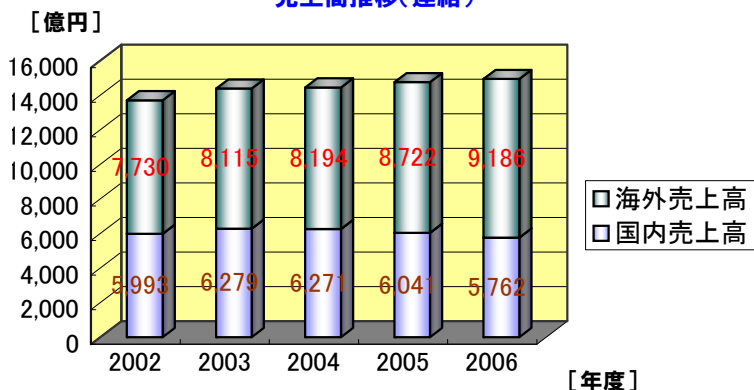
社名	住所	事業内容
① SIA *1	インディアナ州 ラファイエット	米国におけるスバルの生産拠点
② SOA *2	ニュージャージー州 チェリーヒル	米国におけるスバルの販売拠点
③ SCI *3	オンタリオ州 ミシサーガ	カナダにおけるスバルの販売拠点
④ SRD *4	ミシガン州 アンナーバー	米国における自動車に関する研究調査の拠点
⑤ RMI *5	ウイスコンシン州 ハドソン	米国における汎用エンジンの生産拠点

*1 SIA:Subaru of Indiana Automotive, Inc. *2 SOA:Subaru of America, Inc. *3 SCI:Subaru Canada, Inc.
 *4 SRD:Subaru Research & Development, Inc. *5 RMI: Robin Manufacturing U.S.A., Inc.

2006年度売上高部門別比率（連結）



売上高推移(連結)



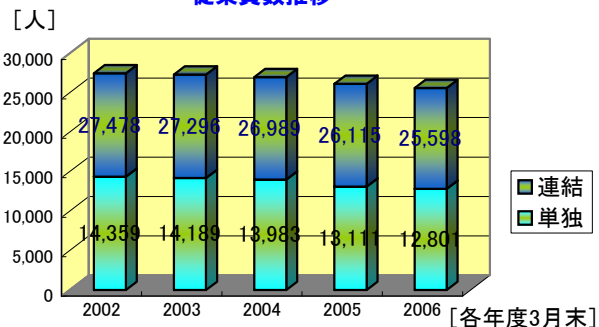
営業利益(連結)



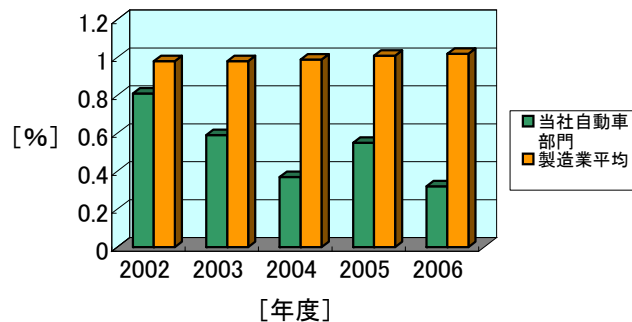
【当社の労使関係について】

富士重工業と富士重工業労働組合は、円滑な企業運営と相互の意思疎通を図るため「労使協議会」を設置しており、コミュニケーションを密にとりながら相互理解・相互信頼の関係を築いています。近年、労使関係は良好な状況を維持しており、労働紛争などの事例はありません。

従業員数推移



労働災害発生率



経済指標データ

■売上高と経常利益の推移(連結)

	2002	2003	2004	2005	2006
	単位:億円				
国内売上高	5,993	6,279	6,271	6,041	5,762
海外売上高	7,730	8,115	8,194	8,722	9,186
売上高合計(連結)	13,723	14,394	14,465	14,764	14,948
営業利益	675	503	420	583	479
経常利益	585	566	436	468	422

■販売台数の推移(連結)

	2002	2003	2004	2005	2006
	単位:千台				
国内販売台数	246	246	254	230	227
海外販売台数	295	306	328	341	351
販売台数合計(連結)	541	552	582	571	578

■部門別売上高詳細(単独)

	2002	2003	2004	2005	2006
	単位:百万円				
スバルオートモーティブビジネス	792,057	835,541	844,687	843,369	823,225
航空宇宙カンパニー	63,029	56,788	59,434	81,787	94,012
産業機器カンパニー	33,543	34,210	38,899	43,750	40,040
エコテクノロジーカンパニー	7,970	7,854	6,490	7,236	7,147
その他	15,626	2,516	-	-	-
売上高合計(単独)	912,228	936,911	949,511	976,143	964,424

■資本金の推移

	2003年3月末	2004年3月末	2005年3月末	2006年3月末	2007年3月末
	単位:億円				
資本金	1,444	1,537	1,537	1,537	1,537

■従業員数の推移

	2003年3月末	2004年3月末	2005年3月末	2006年3月末	2007年3月末
	単位:人				
従業員数(連結)	27,478	27,296	26,989	26,115	25,598
従業員数(単独)	14,359	14,189	13,983	13,111	12,801

■設備投資額、試験研究費の推移(単独)

	2002	2003	2004	2005	2006
	単位:億円				
設備投資額(連結)	646	745	853	562	596
減価償却費(連結)	488	532	511	575	589
設備投資額(単独)	346	327	256	239	330
試験研究費(単独)	598	573	528	467	505

雇用関係データ

■従業員数の推移(連結)

単位:人

	2003年3月末	2004年3月末	2005年3月末	2006年3月末	2007年3月末
正規従業員数(連結)	27,478	27,296	26,989	26,115	25,598

■従業員数の推移(単独)

単位:人

	2003年3月末	2004年3月末	2005年3月末	2006年3月末	2007年3月末
正規従業員数	14,359	14,189	13,983	13,111	12,801
男	13,403	13,242	13,060	12,303	11,914
女	956	947	923	897	887
平均年齢(歳)	37.8	38.4	38.6	37.9	38.3
平均勤続年数(年)	17.3	17.9	18.1	17.5	17.8
定期採用の推移	280	321	349	219	296
うち女子内数	33	45	45	23	34
中途採用 ^{※1} の推移	25	74	36	21	32
うち女子内数	3	8	3	3	3

■従業員男女構成比率の推移(単独)

単位:%

	2003年3月末	2004年3月末	2005年3月末	2006年3月末	2007年3月末
男	93.3	93.3	93.4	93.8	93.1
女	6.7	6.7	6.6	6.8	6.9

■障害者雇用率の推移(単独)

単位:%

	2003年3月末	2004年3月末	2005年3月末	2006年3月末	2007年3月末
障害者雇用率 (障害者雇用人数)	1.87	2.00	1.89	1.80	1.95

■労働災害発生件数(単独)

単位:件

	2002	2003	2004	2005	2006
労働災害発生件数	64	48	45	34	37

■自動車部門労働災害発生件数

単位:%

	2002	2003	2004	2005	2006
度数率(富士重工業 自動車部門)	0.81	0.59	0.37	0.55	0.32
度数率(製造業平均)	0.98	0.98	0.99	1.01	1.02

■富士重工業労働組合員数の推移

単位:人

	2002年7月1日	2003年7月1日	2004年7月1日	2005年7月1日	2006年7月1日
労働組合員数	13,493	13,224	13,111	12,987	11,998

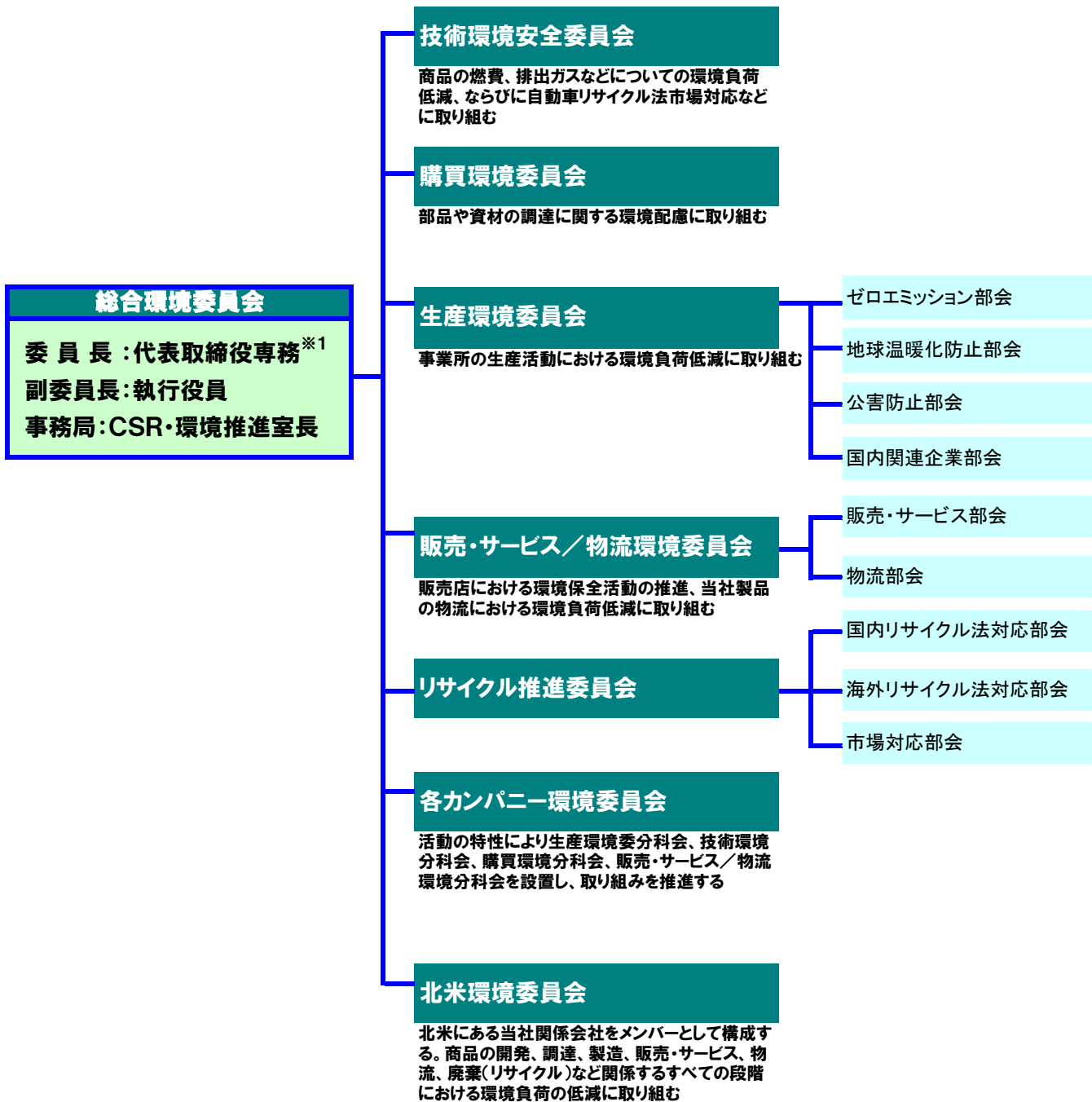
※1:中途採用は、正規採用と嘱託の合計値

当社の環境保全取り組み組織体制

■組織体制

スバルでは、代表取締役専務を中心として社内全カンパニー・事業所の代表者が参加し運営される総合環境委員会を環境保全取り組みの中心ととらえ、その方針・計画の策定や実績の把握を行い、種々の環境負荷低減活動に積極的に取り組んでいます。
2006年度は、5月17日と12月5日の2回、総合環境委員会を開催し、第3次環境ボランティアプランの進捗状況の確認等を実施しました。

■総合環境委員会組織図(2007年4月現在)



※1:2007年4月現在、委員長:代表取締役専務 高木 俊輔、副委員長:執行役員 高橋 充、事務局:総務部 CSR・環境推進室長 鈴木 達也

当社の環境パフォーマンスデータ①

■環境関係有資格者数

スバルでは環境関連資格の必要性を認識し、毎年計画的に各資格者の育成に努めています。

■2007年3月末現在 公的資格保有数

資格種類		総資格保有者数	
公害防止管理者	主任管理者	6	
	大気関係	第一種	6
		第二種	7
		第三種	46
		第四種	14
	水質関係	第一種	10
		第二種	22
		第三種	12
	ダイオキシン類関係	21	
	騒音関係	47	
	振動関係	42	
東京都一級公害防止管理者	4		
東京都水質管理責任者	4		
エネルギー管理士 (熱・電気)	37		
土壌環境リスク管理者	1		
作業環境測定士	2		
産業廃棄物技術管理者	13		
特別管理産業廃棄物管理責任者	41		

■ISO14001 環境内部監査員数

(2006年度実績)

資格種類	カンパニー	人数
ISO14001環境内部監査員(社内資格)	群馬製作所	134
	航空宇宙・エコテクノロジーカンパニー	140
	産業機器カンパニー	27
	東京事業所	65
	本社地区	74
全社合計		440

■2006年度 環境苦情件数と内容

2006年度には下表に示すとおり、8件の環境に関する苦情を受けました。いずれも、是正処置を適切に行なっております。また、2005年度は5件受けており、残念ながら3件の増加となってしまいました。この結果を真摯に受け止めて、苦情件数の削減に努めていきます。

事業所名	発生件数	主な内容	主な是正処置
航空宇宙カンパニー (宇都宮製作所)	騒音6件	①② 航空機の地上運転時の騒音で2件・フライト時の騒音で1件。	航空機エンジン稼動する際には、平日・休日並びに時間帯(夜間)などに十分配慮していきます。
		④⑤ 南第二工場の打鋸音による騒音(夜間)苦情2件。	夕刻～夜間に、打鋸作業をする際には大扉を閉めることを徹底しました。(扉に注意書きを掲示しました)
		⑥ 半田西工場のオートクレープ排気騒音に関する苦情1件。	排気部ダクトに防音シートを貼り付けて、騒音を低減しました。
		エコテクノロジーカンパニー (宇都宮製作所)	臭気1件
	騒音1件	② 工場西側にお住まいの方より、フォークリフトに関する騒音苦情1件。	フォークリフト運転者に対する教育を実施しました。

当社の環境パフォーマンスデータ②

■2006年度 環境法規制値超過件数と内容

当社では、環境法規制値よりも20%きびしい値を自主基準値として設定し、この自主基準値超過“ゼロ”を目標として取り組んでいます。
しかし、2006年度には下表に示すとおり、4件の自主基準値超過(うち、法規制値超過1件)が発生してしまいました。
いずれも、是正処置を適切に行っています。また、2005年度は6件発生しており、2件の削減が図れました。

事業所名	発生件数	主な内容	主な是正処置
群馬製作所	騒音1件	① 矢島工場西側の騒音測定値が自主基準値を超える値となりました	対象工場の排気ファンにインバータを設置し、排気口の向きを変更する処置を行った結果、自主基準値以内に改善されました。
埼玉製作所	騒音1件	① 工場北東 赤堀川河川敷側の騒音測定値が法規制値を超える値となりました	行政に報告し、適正に管理しています。また、本件に関して、苦情等は受けていません。
	水質2件	② 下水道放流水のBOD測定値が、1回自主基準値を超える値となりました。	排水処理設備の吸着剤を交換した結果、自主基準値以内に改善されました。また、定期的な交換を手順に入れました。
		③ 下水道放流水のpH測定値が、2回自主基準値を超える値となりました。	各種原因調査の結果、洗面所排水のつまりから発生したものと判明しました。全面的な清掃を実施しています。

■2006年度 環境事故発生件数と内容

当社では、事業所内部で処理が完了したものも含めて、環境事故をカウントして事故件数の低減・外部へ影響する事故の未然防止に取り組んでいます。
2006年度には下表に示すとおり、11件の環境事故(うち、1件は外部影響事故)が発生してしまいました。
いずれも、是正処置を適切に行っています。また、2005年度は15件発生しており、4件の削減が図れました。
今後も環境事故の未然防止に取り組んでいきます。

事業所名	発生件数	主な内容	主な是正処置
群馬製作所	5件 うち外部流出1件	① 本工場内建屋基礎工事現場から白濁水(泥水)が構外に流出しました。(外部流出事故)	毎年工事業者に対して事故防止教育を行っていますが、再度、工事を実施した業者に対して注意・指導を行いました。
		② 本工場ガソリン地下タンク撤去工事にて、降雨によりコンクリート廃材からアルカリ性廃液が流出しました。	作業手順の見直しと、チェックシートの改訂を行い、再発防止を図りました。
		③ 大泉工場集中クーラント装置のスラッジ台車をフォークで移動中、台車の不良により転倒し、クーラントが雨水側溝に流出しました。	台車の一斉点検とフォークによる荷役作業を社内の業者に移管しました。
		④ 大泉工場部品搬送トラックの燃料ホース外れにより構内で燃料が漏れました。	日常点検項目の見直し、全運送会社に燃料ホース系の点検を依頼、フォローして再発防止を実施しました。
		⑤ 矢島工場コージェネレーションシステムに使用している薬剤を誤って水路に流出させてしまいました。	作業手順の見直し、緊急対応訓練の再実施により、再発防止を図りました。
航空宇宙カンパニー(宇都宮製作所)	4件	① トラックにエアコンを積み込む際に、エアコン内部のクーラント液が雨水側溝に流出しました。	工事業者に対して、クーラント液の処置について再発防止の徹底を指導しました。
		② クーリングタワー内部洗浄中に、洗浄液があふれ雨水側溝に流出しました。	該当設備の管理手順書に、修理作業時の手順を追加しました。
		③ クロム廃液引き取り作業中に、圧送ホースが暴れてクロム廃液が一部雨水側溝に流出しました。	作業方法、場所を見直しして、今後はローリー車駐車場所内で作業をするように変更しました。
		④ クロム含有塗料の容器が車荷台から落下し、塗料の一部が雨水側溝に流出しました。	該当塗料は、コンテナ容器に入れて運搬することに、変更しました。
東京事業所	2件	① 試験車両の確認走行時に、オイルが漏洩しました。	試験車両に各種センサーを取り付けての走行は、作業手順を見直して漏洩防止を図りました。(チェックシート作成、運用)
		② 台車で廃油を運搬中に、その廃油が漏洩しました。	油脂類の運搬作業について、作業手順書を改訂して類似事故防止を図りました。

■2006年度 行政指導などについて

行政からの環境に関する指導や勧告はありませんでした。

環境会計集計結果 (1) 当社(単独)環境コストおよび効果の集計結果(2006年度実績)

◆環境コストおよび経済効果の考え方と算出方法

環境省のガイドラインを参考に、富士重工業の環境保全活動組織に合わせた独自のガイドライン(前回2005年度集計から一部算出方法を変更)を策定し、これに基づき環境コストおよび経済効果を算出・集計しています。(グループ企業も同様に算出・集計しています)
算出方法詳細につきましては、昨年度発行の2006環境・社会報告書別冊データ編の9ページから13ページに掲載しておりますのでご参照ください。
また、本集計に記載しているデータにつきましては、2004年度データを含めて、本集計方法に合わせてあります。

環境コストの定義と分類

①環境負荷低減コスト	生産段階で発生する環境負荷を低減させるコスト	コスト 効果	時間
②投資コスト	将来にわたり環境保全に効果を発するコスト	コスト 効果	時間
③その他コスト	上記に属さないコスト		
※環境設備投資額	環境コストに含めず別枠で表示しております [キャッシュフロー重視の観点から、投資設備の減価償却費はコスト計上していません]		

◆環境コスト、設備投資額の算出方法

環境対応とそれ以外の目的をあわせ持つ設備(投資額25百万円以上)の投資額・関連費(維持管理費等)および労務費については、差額集計または按分集計を行っています。例えば、ある生産設備について、省エネルギーに関する投資額、環境コストは以下のように算出します。

設備投資額、環境コスト = K × (該当生産設備の設備投資額、維持管理費など)

ここで、Kは環境影響係数で次から算出します。

K = (投資総額 - 省エネ目的なしの場合の投資額) / 投資総額

設備投資額が25百万円未満の小規模な設備については、導入目的から判断し環境目的主体のものについては、環境設備として設備投資額、維持管理費等のコストの全額を計上しています。また、キャッシュフロー重視の観点から投資設備の減価償却費は環境コストとして計上していません。その他、固定資産税・保険料等少額の費用は計上を省略しています。

環境設備による環境コスト、経済効果は、設備稼働の翌年から3年間のみ計上しています。

◆経済効果の算出方法

環境省ガイドラインを参考に環境負荷量の削減に伴って得られる費用削減等の効果を基本にし、一部当社独自の考え方を織り込み算出しております。

具体的には、廃棄物等発生量抑制および処理方法の変更による廃棄物等処理費低減分、エネルギー費用削減分等について、コスト区分それぞれに対応させ算出しています。設備を伴わない環境改善施策については、前年度との費用の差額(その改善施策を実施しなかった場合との費用の差額)としています。なお、製品付加価値への寄与、リスク回避(賠償責任回避)等は算出方法に明確な裏付けを与えることが困難であるため当面経済効果把握の対象外としています。

◆2006年度集計結果について

- ・環境コストは159億円で、前年度より3.5億円(2.3%)増加しました。製品研究開発費(+2.3億円)、環境不具合対策費(+2.7億円)等が増加しました。
- ・経済効果は19億円で前年度より1.4億円増加しました。これは有価物売却益の増加(+2億円)が大きく寄与しています。
- ・環境パフォーマンス(物量効果)は、CO₂排出量低減、PRTR対象化学物質削減、VOC排出量低減が順調に改善され、第3次環境ボランティアプラン目標を達成することができました。

◆2006年度の環境コストおよび効果の集計結果 ◇集計対象:富士重工業全社(単独) ◇集計期間:2006年4月~2007年3月

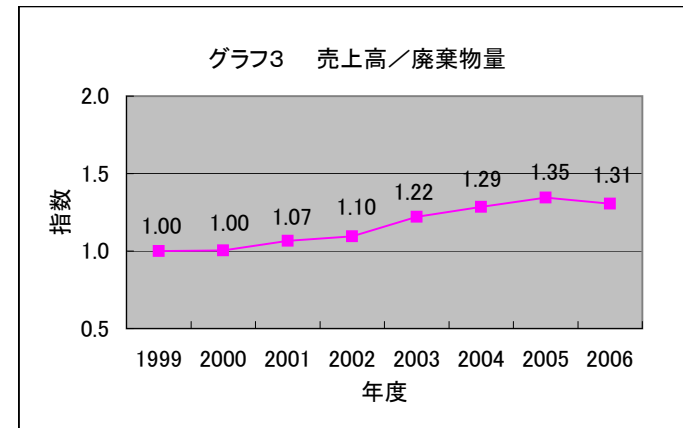
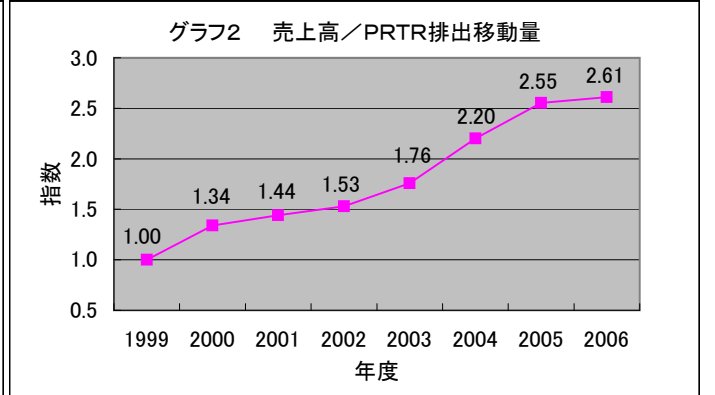
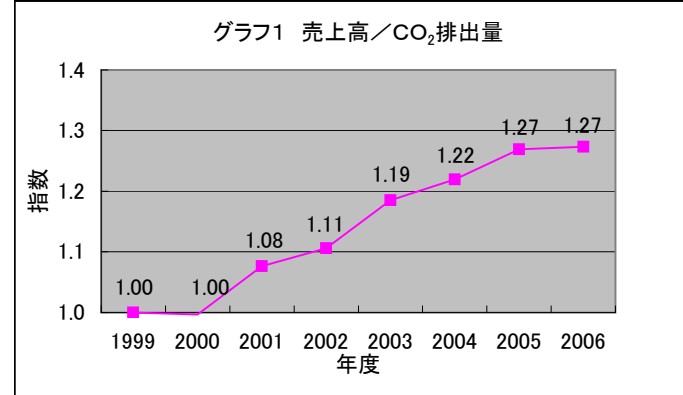
注:小数点以下第一位を四捨五入していますので、表記数字の合計が一部合わないところがあります。

環境コスト				設備投資額			経済効果				環境パフォーマンス(物量効果)							
コスト区分 右下[番号]:環境省ガイドラインでのコスト分類 (別表参照)	コスト金額(百万円)			主な内容 ☆付:2006年度新規実施施策(増加要因)	設備投資額(百万円)			内容	効果金額(百万円)			項目	単位	06年度実績	対前年増減分	05年度実績	04年度実績	
	06年度	05年度	04年度		06年度	05年度	04年度		06年度	05年度	04年度							
環境負荷低減コスト (生産段階)	廃棄物の処理・リサイクル、 廃棄物削減 [①-3]	418	434	410	☆塗料カス回収装置導入 ☆新工場廃棄物ステーション設置 廃棄物リサイクルセンター運用費	18	11	17	廃棄物発生抑制、処理方法変更による 処理費削減、リサイクルで得られた 有価物等の売却益 (エンジンオイル再生活用など)	1,496	1,293	1,370	廃棄物量	ton	73,062	1,362	71,700	73,024
	省エネ、CO ₂ 排出削減 [①-2]	41	37	38	☆天然ガス化工事(配管、貫流ボイラ設置、工場暖房等) ☆生産設備空調機更新 ☆照明設備改善	254	254	487	エネルギー費用削減 軽自動車ライン統合 コージェネレーションシステム効果	265	362	305	エネ使用量(原油換算)	千kL	134.2	0.2	134.0	134.8
	代替フロン排出低減 [①-2]	0.7	0.7	0.5	☆フロン充填/回収装置設置	0.3	1	0	代替フロン回収・再利用	4	0	0	生産高エネ原単位	kL/億円	14.0	0.2	13.8	14.3
	排水処理、排ガス処理等 公害防止 [①-1]	383	427	476	☆塗装ブース臭気対策 ☆新工場廃液処理設備設置 ☆浄化槽設置	268	558	368	処理費用低減	5	3	0	CO ₂ 排出量	万ton-CO ₂	22.7	-0.3	23.0	23.3
	VOC排出低減 [①-1]	7.0	3.5	2.5	☆PTFEスプレーガンカップ	8.4	0	82	バンパー静電塗装化	111	96	83	PRTR化学物質 ^{※2} 取扱量	ton	3,989	-13	4,002	4,285
	環境負荷低減コスト合計	849	902	927		548	825	954	環境負荷低減効果合計	1,880	1,754	1,758	排出移動量		869	-13	882	1,013
投資コスト	教育、ISO14001関連 [③]	115	120	122	環境教育 ISO14001維持(申請費、専任労務費)	-	-	-		-	-	-	VOC排出量 (自動車のみ)	g/m2	43.8	-2.4	46.2	46.4
	製品研究開発 [④]	14,131	13,898	15,514	燃費向上、排ガススクリーン化、リサイクル性向上 環境製品開発	532	647	973	(投資効果合計) 当面把握対象外	0	0	0						
	投資コスト合計	14,246	14,017	15,637		532	647	973		0	0	0						
その他コスト	製品使用廃棄後の対策 [②]	258	318	550	使用済みバンパー回収、別部品リサイクル 自動車リサイクル対応	5	116	694	リサイクル材使用によるバージン材削減	34	23	20						
	社会貢献、 その他環境対策 [③⑤⑥⑦]	586	346	903	環境・社会報告書作成、工場周辺清掃 日本自動車工業会環境関連事業 植樹、環境不具合対策等	0	0	0.0		0	0	0						
	その他コスト合計	844	664	1,453		5	116	694	その他効果合計	34	23	20						
総合計	15,938	15,584	18,017		1,085	1,587	2,621		1,914	1,777	1,778							

※1 環境省ガイドラインでのコスト分類:① 事業エリア内コスト、①-1 公害防止コスト、①-2 地球環境保全コスト、①-3 資源循環コスト、② 上・下流コスト、③ 管理活動コスト、④ 研究開発コスト、⑤ 社会活動コスト、⑥ 環境損傷対応コスト、⑦ その他コスト

◆環境経営指標

環境経営指標の一つとして、事業活動の環境効率を「売上高÷環境負荷」ととらえ、生産段階における環境負荷量で1999年度を基準に算出した結果が以下のグラフです。
CO₂排出量、PRTR移動排出量はほぼ順調に推移しています。廃棄物量については有価物として売却している金属等の増加により効率が悪化している結果となりました。埋立量については2004年度以降「ゼロレベル」を継続し環境効率が極大となっているためグラフの掲載を取りやめました。



環境保全活動が当社の事業活動に占める割合

	06年度	05年度	04年度
試験研究費に対する環境保全目的の研究開発費の割合	28%	30%	29%
設備投資額に占める環境保全目的の投資額割合	3%	7%	10%

環境会計集計結果 (2) 国内関係会社(6社) 環境コストおよび効果の集計結果(2006年度実績)

◆集計方法・計上基準について

2005年度集計から導入した富士重工業グループの新環境会計ガイドラインにより集計を行いました。新ガイドラインの概要は富士重工業(単独)のページを、また、詳細につきましては昨年発行の2006環境・社会報告書 別冊データ編(Webに掲載)P9～P13をご参照ください。

◆2006年度集計結果について

国内関連企業部会6社の生産段階での環境負荷低減活動におきましては、環境コストが2.7億円とほぼ前年度並みで、経済効果については2.0億円と前年比1.0%増加させることができました。

環境パフォーマンス実績値につきましては総合的に削減が進んでいます。

特に、廃棄物の埋立量につきましては05年度の51%、04年度の16%のレベルまで削減が進み、部会全体として昨年度に続き、廃棄物ゼロレベル(廃棄物量に対する埋立量が1%以下)を継続しました。

引き続き、部会の全個別企業での廃棄物ゼロレベル達成に向け取り組みを推進していきます。

エネルギー使用量・CO₂排出量では総量での削減が進んでおります。CO₂排出量は26.9千トンで05年度比4.3%の削減となりました。

地球温暖化防止のため、さらに省エネルギー、CO₂排出量削減に取り組んでいきます。

PRTR化学物質については取扱量、排出移動量とも削減が進んでいます。

◆2006年度の環境コストおよび効果の集計結果

注:小数点以下第一位を四捨五入していますので、表記数字の合計が一部合わないところがあります

◇集計対象企業:国内関連企業部会6社:富士ロビン(株)、輸送機工業(株)、富士機械(株)、(株)イチタン、桐生工業(株)、(株)スバルロジスティクス ◇集計対象期間:2006年4月～2007年3月

環境コスト				経済効果			環境パフォーマンス(物量効果)							
コスト区分		コスト金額(百万円)			内容	金額(百万円)			項目	単位	06年度 実績	05年度 実績	04年度 実績	
右下[番号]・環境省ガイドラインでのコスト分類※1		06年度	05年度	04年度		06年度	05年度	04年度						
環境負荷 低減コスト (生産段階)	廃棄物の処理・リサイクル、 廃棄物削減 [①-3]	88	94	136	廃棄物発生抑制、処理方法変更 による処理費削減、リサイクルで得ら れた有価物等の売却益	157	155	158	廃棄物量	ton	9,081	10,656	13,009	
	省エネ、CO ₂ 排出削減 [①-2]	12	13	17		エネルギー費用削減	42	27	8	エネ使用量(原油換算)	kL	15,641	16,663	18,401
	排水処理、排ガス処理等 公害防止 [①-1]	24	17	44		—	0	0	0	埋立量	ton	30	59	194
	環境負荷低減コスト合計	124	124	198		環境負荷低減効果合計	199	182	166	エネ使用量(原油換算)	kL/億円	35.64	37.08	35.13
投資コスト	教育、ISO14001関連、 環境調査他 [③]	27	30	36	(投資効果合計) 当面把握対象外	—	—	—	CO ₂ 排出量	ton-CO ₂	26,949	28,170	31,208	
	製品研究開発 [④]	110	106	90		—	0	0	0	PRTR化学物質 ※2				
投資コスト合計		137	136	125		0	0	0	取扱量	ton	39	40	116	
その他コスト	原材料変更による コストアップ分、 製品使用廃棄後の対策、 社会貢献、環境対策他 [②⑤⑥⑦]	10	12	17	その他効果合計	—	—	—	排出移動量	ton	4	5	72	
	その他コスト合計	10	12	17		その他効果合計	0	0	0					
総合計		272	272	339		199	182	166						

※1 環境省ガイドラインにおけるコスト分類

- ① 事業エリア内コスト
 - ①-1 公害防止コスト
 - ①-2 地球環境保全コスト
 - ①-3 資源循環コスト
- ② 上・下流コスト
- ③ 管理活動コスト
- ④ 研究開発コスト
- ⑤ 社会活動コスト
- ⑥ 環境損傷対策コスト
- ⑦ その他コスト

※2 年間取扱量1ton(特定第一種は0.5ton)以上の物質を集計しています。

環境会計集計結果 (3) 海外関係会社(4社) 環境コストおよび効果の集計結果(2006年度試行集計結果) [参考値]

今年度は対象企業を北米におけるスバル車関連の関係会社4社に拡大して、試行的に2006年度(1~12月)の環境会計集計を行いました。あくまで試行計算によるものですが、ご参考までに集計結果を掲載いたします。

◆集計方法・計上基準について

今回から2005年度に富士重工業(単体)・国内関連企業部会6社で導入した富士重工業グループ環境会計新ガイドラインに準拠して集計しました。新ガイドラインの概要は富士重工業(単体)のページをご参照ください。

◆2006年度試行集計結果について

- ・環境コストは687百万円に対し、経済効果は755百万円と上回っています。これは主に廃棄物処理費用削減による効果です。
- ・環境パフォーマンス(物量効果)はいずれも2005年度から削減することができました。特に自動車生産拠点SIAの直接埋立量は0tを継続しています。

◆2006年度の環境コストおよび効果の試行集計結果

◇集計対象企業: SIA、SOA、SCI、SRDの北米自動車関連4社 ◇集計対象期間: 2006年1月~12月

環境コスト		経済効果		環境パフォーマンス(物量効果)				
コスト区分	コスト金額(百万円)	内容 数値:百万円	金額(百万円)	項目	単位	06年度	【参考】 05年度	
右下[番号]:環境省ガイドラインでのコスト分類※1		06年度						
環境負荷 低減コスト (生産段階)	廃棄物の処理・リサイクル、 廃棄物削減 [①-3]	95	廃棄物発生抑制、 処理方法変更による 処理費削減、売却益	751	廃棄物量	ton	15,083	16,226
	省エネルギー、 CO ₂ 排出削減 [①-2]	4	エネルギー費用削減	4	エネルギー使用量(原油換算)	kL	42,161	45,446
	排水処理、排ガス処理等 公害防止 [①-1]	94		0	CO ₂ 排出量	ton-CO ₂	81,252	89,738
	環境負荷低減コスト合計	192	環境負荷低減効果合計	755				
投資コスト	教育・ISO14001関連 環境調査(非定常) [③]	42	—	—				
	製品研究開発 [④]	424						
	投資コスト合計	467	(投資効果合計) 当面把握対象外	0				
その他コスト	原材料変更による コストアップ分 製品使用廃棄後の対策 社会貢献・環境対策他 [②⑤⑥⑦]	28		0				
	その他コスト合計	28	その他効果合計	0				
総合計	687		755					

注: 小数点以下第一位を四捨五入していますので、表記数字の合計が一部合わないところがあります。

※1 環境省ガイドラインにおけるコスト分類

- ① 事業エリア内コスト
- ①-1 公害防止コスト
- ①-2 地球環境保全コスト
- ①-3 資源循環コスト
- ②上・下流コスト
- ③管理活動コスト
- ④研究開発コスト
- ⑤社会活動コスト
- ⑥環境損傷対策コスト
- ⑦その他コスト

環境測定データ (1) - 1 群馬製作所

群馬製作所* 2006年度工場サイトデータ

1. エネルギー、水、廃棄物関係*

■ CO₂排出量

■ 水使用量実績

(単位: m³)

項目	2006年度実績
CO ₂ 排出量 (ton-CO ₂)	175,791
1990年度を100とした場合の指数	84.3

項目	2006年度実績
水使用量	2,510,395
1999年度を100とした場合の指数	49.9

電力および化石燃料(重油、軽油、灯油、ガソリン、都市ガス、LPG)の合計使用量を換算してCO₂換算係数の出典: (社)日本自動車工業会 (個別に把握した換算係数を使用している場合がある)

■ 廃棄物・金属くず関係

(単位: ton)

項目	2006年度実績
金属くず	61,416
社内リサイクル量	1,705
直接埋立	0
外部中間処理	5,035
外部中間処理後埋立	1

*各データの算出範囲は、群馬製作所生産工場を算出範囲としています。スバル研究実験センター、スバル部品センターは含んでいません。

2. 水質関係(各工場およびスバル研究実験センター)

◆ 本工場

■ 水質(水質汚濁防止法、県条例) 1号・2号・3号・4号・5号各水路

項目	規制値 (県条例)	自主基準値	最大値	最小値	平均値
pH	5.8~8.6	6.1~8.3	7.5	6.2	7.2
BOD	25	20	18.5	0.5	3.6
SS	50	40	7.6	1.3	2.5
n-ヘキサン(鉱物油)	5	4	2.1	0.1	0.8
フッ素	8	6.4	1.1	0.2	0.6
亜鉛	2	1.6	1.2	0.1	0.1
溶解性鉄	10	8	0.2	0.1	0.1
溶解性マンガン	10	8	0.2	0.1	0.1
全りん	16(8)	6.4	4.4	0.2	2.0
全窒素	120(60)	48	16.0	1.7	5.0
大腸菌	3,000	2,400	240	0	64

【記号】...pH:水素イオン濃度、BOD:生物化学的酸素要求量、SS:水中に浮遊または懸濁している直径2mm以下の粒子状物質
【単位】...大腸菌=個/ml、その他はpH除きmg/ℓ、全りん・全窒素の規制値は日間平均値

◆ 矢島工場

■ 水質(水質汚濁防止法、県条例) 1号水路

項目	規制値 (県条例)	自主基準値	最大値	最小値	平均値
pH	5.8~8.6	6.1~8.3	7.6	6.9	7.3
BOD	25	20	12.3	1.9	4.1
SS	50	40	5.2	1.0	2.3
n-ヘキサン(鉱物油)	5	4	2.1	0.1	1.2
フッ素	8	6.4	1.3	1.0	1.2
亜鉛	2	1.6	0.3	0.1	0.2
溶解性鉄	10	8	0.1	0.1	0.1
溶解性マンガン	10	8	0.1	0.1	0.1
全りん	16(8)	6.4	1.5	0.5	1.2
全窒素	120(60)	48	7.9	4.1	5.5
大腸菌	3,000	2,400	230	46	138

【記号】...pH:水素イオン濃度、BOD:生物化学的酸素要求量、SS:水中に浮遊または懸濁している直径2mm以下の粒子状物質
【単位】...大腸菌=個/ml、その他はpH除きmg/ℓ、全りん・全窒素の規制値は日間平均値

◆ 太田北工場

■ 水質(水質汚濁防止法、県条例) 1号・5号各水路

項目	規制値 (県条例)	自主基準値	最大値	最小値	平均値
pH	5.8~8.6	6.1~8.3	7.6	7.2	7.3
BOD	25	20	9.6	0.2	1.9
SS	50	40	11.4	1.4	6.4
n-ヘキサン(鉱物油)	5	4	1.6	0.1	0.6
フッ素	8	6.4	0.2	0.2	0.2
亜鉛	2	2	0.0	0.0	0.0
溶解性鉄	10	8	0.2	0.1	0.2
溶解性マンガン	10	8	0.1	0.1	0.1
全りん	16(8)	6.4	5.4	2.1	3.5
全窒素	120(60)	48	2.6	0.9	1.6
大腸菌	3,000	2,400	220	140	180

【記号】...pH:水素イオン濃度、BOD:生物化学的酸素要求量、SS:水中に浮遊または懸濁している直径2mm以下の粒子状物質
【単位】...大腸菌=個/ml、その他はpH除きmg/ℓ、全りん・全窒素の規制値は日間平均値

◆ 大泉工場

■ 水質(水質汚濁防止法、太田・大泉公害防止協定) 1号水路

項目	規制値 (公害防止協定値)	自主基準値	最大値	最小値	平均値
pH	5.8~8.6	6.1~8.3	8.2	6.9	7.5
BOD	25(10)	8	6.3	2.1	4.0
SS	50(10)	8	7.5	0.3	0.5
n-ヘキサン(鉱物油)	5(3)	2.4	2.0	0.1	1.0
フッ素	8	6.4	0.2	0.2	0.2
亜鉛	2(2)	1.6	0.3	0.1	0.2
溶解性鉄	10(5)	4	0.1	0.1	0.1
溶解性マンガン	10(5)	4	0.1	0.1	0.1
全りん	16(8)	6.4	0.6	0.1	0.4
全窒素	120(60)	48	11.0	2.1	4.8
大腸菌	3000(1000)	800	60	38	49

【記号】...pH:水素イオン濃度、BOD:生物化学的酸素要求量、SS:水中に浮遊または懸濁している直径2mm以下の粒子状物質
【単位】...大腸菌=個/ml、その他はpH除きmg/ℓ、全りん・全窒素の規制値は日間平均値

◆ 伊勢崎工場

■ 水質(下水道法) G放流口

項目	規制値 (公害防止協定値)	自主基準値	最大値	最小値	平均値
pH	5.7~8.7	6.0~8.4	7.5	6.7	7.1
BOD	300	240	110	4.2	59.0
SS	300	240	25	3.0	18.4
n-ヘキサン(鉱物油)	5	4.0	1以下	1以下	0.0
フッ素	8	6.4	2.5	0.5	1.5
亜鉛	2	1.6	1.7*	0.1	0.6
溶解性鉄	10	8	0.1	0.0	0.1
溶解性マンガン	10	8	6.1	0.3	3.2
全りん	20	16	13.0	0.3	5.2
全窒素	150	120	25.5	2.4	12.1

【記号】...pH:水素イオン濃度、BOD:生物化学的酸素要求量、SS:水中に浮遊または懸濁している直径2mm以下の粒子状物質
【単位】...pH除きmg/ℓ、全りん・全窒素の規制値は日間平均値
*亜鉛の最大値1.7mg/ℓにつきましては下水道条例改正(06.12.11施行)前の測定値であり、この時点における自主基準値は4.0mg/ℓとなります。法改正以後の測定値はすべて自主基準値内となっています。

◆ スバル研究実験センター

■ 水質(水質汚濁防止法、県条例、佐野市との公害防止協定) 調整池

項目	公害防止協定値	自主基準値	最大値	最小値	平均値
pH	5.8~8.6	6.1~8.3	7.5	7.4	7.5
BOD	25	16	1.0	1.0	1.0
SS	40	32	1.0	1.0	1.0
n-ヘキサン(鉱物油)	5	4	1以下	1以下	1以下
フッ素	8	6.4	0.2	0.2	0.2
亜鉛	2	1.6	0.0	0.0	0.0
溶解性鉄	3	2.4	0.1	0.1	0.0
溶解性マンガン	3	2.4	0.1	0.1	0.1
全りん	8	6.4	0.1	0.1	0.1
全窒素	60	48	0.4	0.4	0.4

【記号】...pH:水素イオン濃度、BOD:生物化学的酸素要求量、SS:水中に浮遊または懸濁している直径2mm以下の粒子状物質
【単位】...pH除きmg/ℓ、全りん・全窒素の規制値は日間平均値

環境測定データ (1)-2 群馬製作所

3. 大気関係 (各工場)

◆ 本工場

■ 大気 (大気汚染防止法)

設備	物質	規制値	自主基準値	最大値	平均値
ボイラー (5号、6号)	NOx	150	120	101	86
	SOx	60.3	48.2	0.21	0.2
	ばいじん	0.25	0.2	0.059	0.028
乾燥炉 (電着、中・上塗)	NOx	230	184	51	38
	ばいじん	0.2、0.3	0.16、0.28	0.013	0.006

【単位】NOx:ppm、SOx:m³N/h、ばいじん:g/m³N、
法規特定施設32基中、大型ボイラー、乾燥炉のデータを掲載しています。
掲載していない特定施設におきましても測定値は法規制値をクリアしています。

◆ 太田北工場

■ 大気 (大気汚染防止法)

設備	物質	規制値	自主基準値	最大値	平均値
暖房機	NOx	250	200	88	77.5
	ばいじん	0.3	0.24	0.015	0.010
乾燥炉	NOx	230	184	50	30.5
	ばいじん	0.35	0.28	0.064	0.039

【単位】NOx:ppm、ばいじん:g/m³N、
法規特定施設3基のデータを掲載しています。

◆ 伊勢崎工場

大気関係の法規特定施設としては、排出基準 (NOx、ばいじん) が猶予されている小型ボイラーが2基ありますが、NOx・ばいじんの自主測定を行っており、測定結果は全て自主管理基準値以内となっています。

◆ 矢島工場

■ 大気 (大気汚染防止法)

設備	物質	規制値	自主基準値	最大値	平均値
コーゼネ (ガスタービン)	NOx	70	56	2.5	2.4
	ばいじん	0.05	0.04	0.002	0.002
ボイラー (1号、2号)	NOx	230	184	150	98
	SOx	62	50	0.8	0.39
乾燥炉 (電着、中・上塗、PP)	ばいじん	0.25	0.2	0.075	0.035
	NOx	230、250	184	57	
	ばいじん	0.2、0.35	0.16、0.28	0.032	0.020

【単位】NOx:ppm、SOx:m³N/h、ばいじん:g/m³N、
法規特定施設25基中、コーゼネ、大型ボイラー、乾燥炉のデータを掲載しています。
掲載していない特定施設におきましても測定値は法規制値をクリアしています。

◆ 大泉工場

■ 大気 (大気汚染防止法)

設備	物質	規制値	自主基準値	最大値	平均値
乾燥炉	ダイオキシン	5	4	0.004	0.0037
ボイラー (1号)	NOx	150	120	100	83.8
	SOx	8	6.4	0.3	0.3
	ばいじん	0.25	0.2	0.064	0.02
アルミ溶解炉	NOx	180	144	74	37.57
	ばいじん	0.2	0.16	0.085	0.02

【単位】SOx:m³N/h、NOx:ppm、ばいじん:g/m³N、
ダイオキシン:ng-TEQ/m³N
法規特定施設9基中、溶解炉、大型ボイラーデータを掲載しています。
掲載していない特定施設におきましても測定値は法規制値をクリアしています。

4. PRTR

群馬製作所 (本工場、矢島工場、太田北工場、大泉工場)

(単位 : kg/年、ダイオキシン類のみ、mg-TEQ/年)

物質番号	CAS番号	化学物質名	取扱量	大気排出量	水域排出量	移動量	消費量	除去処理量	リサイクル量
1	none	亜鉛の水溶性化合物	25,951	0	284	5,068	20,598	0	0
9	103-23-1	アジピン酸ビス(2-エチルヘキシル)	1,785	0	0	0	1,767	18	0
16	141-43-5	2-アミノエタノール	2,078	0	168	19	0	1,891	0
30	25068-38-6	4, 4'-イソプロピリデンジフェノールと1-クロロ-2, 3-エポキシプロパンの重縮合物(液状のものに限る。)	12,455	0	0	1,130	11,240	84	0
40	100-41-4	エチルベンゼン	316,346	185,805	0	0	46,510	22,017	62,014
43	107-21-1	エチレングリコール	1,670,293	0	0	0	1,670,293	0	0
63	1330-20-7	キシレン	680,304	341,032	0	0	209,701	40,065	89,505
179	none	ダイオキシン類 (副生成物)	0	(0.13)	0	0	0	0	0
224	108-67-8	1, 3, 5-トリメチルベンゼン	25,911	12,627	0	0	1,957	3,153	8,173
227	108-88-3	トルエン	623,129	286,092	0	0	274,347	39,721	22,969
232	none	ニッケル化合物	7,169	0	319	5,247	1,603	0	0
272	117-81-7	フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)	12,092	0	0	246	11,846	0	0
283	none	ふっ化水素及びその水溶性塩	4,195	0	1,244	2,951	0	0	0
299	71-43-2	ベンゼン	16,694	56	0	0	16,638	0	0
309	9016-45-9	ポリ(オキシエチレン)ニフェニルエーテル	1,215	0	91	940	86	98	0
310	50-00-0	ホルムアルデヒド (副生成物)	2,936	2,936	0	0	0	0	0
311	none	マンガン及びその化合物	12,062	0	332	5,812	5,917	0	0
		合計	3,414,614	828,549	2,438	21,413	2,272,504	107,048	182,662

群馬製作所 (伊勢崎工場)

(単位 : kg/年、ダイオキシン類のみ、mg-TEQ/年)

物質番号	CAS番号	化学物質名	取扱量	大気排出量	水域排出量	移動量	消費量	除去処理量	リサイクル量
63	1330-20-7	キシレン	4,067	117	0	0	3,950	0	0
227	108-88-3	トルエン	4,722	18	0	0	4,704	0	0
272	117-81-7	フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)	2,162	0	0	108	2,054	0	0
		合計	10,950	135	0	108	10,708	0	0

スバル研究実験センター (栃木県佐野市)

物質番号	CAS番号	化学物質名	取扱量	大気排出量	水域排出量	移動量	消費量	除去処理量	リサイクル量
40	100-41-4	エチルベンゼン	3,224	11	0	0	3,213	0	0
63	1330-20-7	キシレン	15,279	52	0	0	15,227	0	0
227	108-88-3	トルエン	39,406	137	0	0	39,269	0	0
299	71-43-2	ベンゼン	992	3	0	0	988	0	0
		合計	58,901	204	0	0	58,697	0	0

環境測定データ (2)-1 宇都宮製作所

宇都宮製作所 2006年度工場サイトデータ

1. エネルギー、水、廃棄物関係

■ CO₂排出量 (単位: ton-CO₂)

カンパニー	2006年度実績	1990年度を100とした場合
航空宇宙のみ	25,203	92.4
エコテクノロジー含む	27,707	79.1

電力および化石燃料(重油、軽油、灯油、ガソリン、都市ガス、LPG)の合計使用量を換算しています。
CO₂換算係数の出典:(社)日本自動車工業会(個別に把握した換算係数を使用している場合があります)

■ 水使用量実績 (単位:m³)

カンパニー	2006年度実績	1999年度を100とした場合
航空宇宙のみ	700,307	80.6
エコテクノロジー含む	727,950	70.8

■ 廃棄物・金属くず関係(航空宇宙・エコテック合計値) (単位: ton)

項目	2006年度実績
金属くず	637
金属くずを除く産業廃棄物・特別管理産業廃棄物	2,184
直接埋立	0
外部中間処理後埋立	0

2. 水質関係

◆ 本工場

■ 水質(下水道法、宇都宮市条例) 排水・公共下水道

項目	規制値(県条例)	自主基準値	最大値	最小値	平均値
pH	5<, >9	5.4~8.6	7.9	6.3	7.2
BOD	600未満	480	284.0	<0.5	41.0
SS	600未満	480	152.0	<1.0	45.9
n-ヘキサン(鉱物油)	5	4	<1.0	<1.0	<1.0
n-ヘキサン(動植物油)	30	24	14	<1.0	6.1
ふっ素化合物	8	6.4	1.6	<0.2	0.6
カドミウム	0.1	0.08	0.02	<0.005	0.0
シアン	1	0.8	<0.1	<0.1	<0.1
総クロム	2	1.6	0.08	<0.01	0.02
六価クロム	0.1	0.08	<0.02	<0.02	<0.02

【記号】…pH:水素イオン濃度、BOD:生物化学的酸素要求量、SS:水中に浮遊または懸濁している直径2mm以下の粒子状物質
【単位】…pH除きmg/ℓ

◆ 南工場

■ 水質(下水道法、宇都宮市条例) 排水・公共下水道

項目	規制値(県条例)	自主基準値	最大値	最小値	平均値
pH	5<, >9	5.4~8.6	8.3	6.3	7.2
BOD	600未満	480	166	6.5	51.6
SS	600未満	480	147	11.0	52.5
n-ヘキサン(鉱物油)	5	4	<1.0	<1.0	<1.0
n-ヘキサン(動植物油)	30	24	23.7	<1.0	5.6
カドミウム	0.1	0.08	<0.005	<0.005	<0.005
シアン	1	0.8	<0.1	<0.1	<0.1
総クロム	2	1.6	0.14	<0.01	0.02
六価クロム	0.1	0.08	<0.02	<0.02	<0.02

【記号】…pH:水素イオン濃度、BOD:生物化学的酸素要求量、SS:水中に浮遊または懸濁している直径2mm以下の粒子状物質
【単位】…pH除きmg/ℓ

◆ 南第二工場

■ 水質(下水道法、宇都宮市条例) 排水・公共下水道

項目	規制値(県条例)	自主基準値	最大値	最小値	平均値
pH	5<, >9	5.4~8.6	7.8	6.4	7.3
BOD	600未満	480	153	<0.5	43.9
SS	600未満	480	245	<1.0	49.5
n-ヘキサン(鉱物油)	5	4	3.4	<1.0	1.1
n-ヘキサン(動植物油)	30	24	23.5	<1.0	7.3
ふっ素化合物	8	6.4	2.2	<0.2	0.6
カドミウム	0.1	0.08	<0.005	<0.005	<0.005
シアン	1	0.8	<0.1	<0.1	<0.1
総クロム	2	1.6	0.20	<0.01	0.06
六価クロム	0.1	0.08	<0.02	<0.02	<0.02

【記号】…pH:水素イオン濃度、BOD:生物化学的酸素要求量、SS:水中に浮遊または懸濁している直径2mm以下の粒子状物質
【単位】…pH除きmg/ℓ

◆ 半田工場

■ 水質(水質汚濁防止法、愛知県条例、半田市公害防止協定値等)

項目	規制値(県条例)	自主基準値	最大値	最小値	平均値
pH	6~8	6.2~7.8	7.7	6.5	7.1
BOD	25	20	14.8	<1.0	4.6
SS	25	20	20	2.0	8.4
COD	25	20	17	1.9	8.4
大腸菌数(個/ml)	3000	2400	1,380	30.0	345.0

【記号】…pH:水素イオン濃度、BOD:生物化学的酸素要求量、SS:水中に浮遊または懸濁している直径2mm以下の粒子状物質
【単位】…大腸菌=個/ml、その他はpH除きmg/ℓ

■ 水質(水質汚濁防止法) 排水・公共河川

項目	規制値(県条例)	自主基準値	最大値	最小値	平均値
pH	5.8~8.6	6.0~8.3	7.9	6.3	7.5
BOD	30	24	6.4	<0.5	1.6
SS	50	40	5.2	<1.0	2.4
n-ヘキサン(鉱物油)	5	4	<1.0	<1.0	<1.0
n-ヘキサン(動植物油)	30	24	<1.0	<1.0	<1.0
カドミウム	0.1	0.08	<0.005	<0.005	<0.005
シアン	1	0.8	<0.1	<0.1	<0.1
総クロム	2	1.6	<0.01	<0.01	<0.01
六価クロム	0.5	0.4	<0.02	<0.02	<0.02

【記号】…pH:水素イオン濃度、BOD:生物化学的酸素要求量、SS:水中に浮遊または懸濁している直径2mm以下の粒子状物質
【単位】…pH除きmg/ℓ

■ 水質(水質汚濁防止法) 排水・公共河川

項目	規制値(県条例)	自主基準値	最大値	最小値	平均値
pH	5.8~8.6	6.0~8.3	8.0	6.6	7.4
BOD	30	24	4.3	<0.5	1.7
SS	50	40	2.8	1.6	2.0
n-ヘキサン(鉱物油)	5	4	<1.0	<1.0	<1.0
n-ヘキサン(動植物油)	30	24	<1.0	<1.0	<1.0
カドミウム	0.1	0.08	<0.005	<0.005	<0.005
シアン	1	0.8	<0.1	<0.1	<0.1
総クロム	2	1.6	<0.01	<0.01	<0.01
六価クロム	0.5	0.4	<0.02	<0.02	<0.02

【記号】…pH:水素イオン濃度、BOD:生物化学的酸素要求量、SS:水中に浮遊または懸濁している直径2mm以下の粒子状物質
【単位】…pH除きmg/ℓ

◆ 半田西工場

■ 水質(水質汚濁防止法、愛知県条例、半田市公害防止協定値等)

項目	規制値(県、市)	自主基準値	最大値	最小値	平均値
pH	6~8	6.2~7.8	7.2	6.4	6.9
BOD	15	12	11.0	5.7	8.0
SS	15	12	6	3	3.6
n-ヘキサン(鉱物油)	2	1.6	<0.5	<0.5	<0.5
n-ヘキサン(動植物油)	2	1.6	<0.5	<0.5	<0.5
ふっ素化合物	5	4	0.3	<0.02	0.1
シアン	0.5	0.4	<0.1	<0.1	<0.1
総クロム	0.2	0.16	<0.04	<0.04	<0.04
六価クロム	0.3	0.24	<0.04	<0.04	<0.04

【記号】…pH:水素イオン濃度、BOD:生物化学的酸素要求量、SS:水中に浮遊または懸濁している直径2mm以下の粒子状物質
【単位】…pH除きmg/ℓ

環境測定データ (2) - 2 宇都宮製作所

3. 大気関係(各工場)

◆ 本工場(航空宇宙・エコテック)

■ 大気(大気汚染防止法)

物質	設備	規制値	自主基準値	最大値	最小値	平均値
SOx	ボイラー	8	6.4	—	—	—
	炉	8	6.4	—	—	—
NOx	ボイラー	250	200	81	77	79
	"	180	144	74	59	67
	炉	230	184	40	33	36
	コージェネ	600	480	191	161	178
ばいじん	ボイラー	0.3	0.24	0.015	0.007	0.011
	乾燥炉	0.2	0.16	0.004	0.001	0.003

【単位】SOx:m³N/h、NOx:ppm、ばいじん:g/m³N、

◆ 南工場(航空宇宙)

■ 大気(大気汚染防止法)

物質	設備	規制値	自主基準値	最大値	最小値	平均値
SOx	ボイラー	8	6.4	—	—	—
NOx	"	180	144	101	94	98
ばいじん	"	0.3	0.24	0.002	0.001	0.002

【単位】SOx:m³N/h、NOx:ppm、ばいじん:g/m³N、

◆ 半田工場(航空宇宙)

■ 大気(大気汚染防止法)

物質	設備	規制値	自主基準値	最大値	最小値	平均値
SOx	ボイラー	1.5	1.2	0.07	0.02	0.04
NOx	"	180	144	29	21	24
ばいじん	"	0.1	0.08	0.002	0.002	0.002

【単位】SOx:m³N/h、NOx:ppm、ばいじん:g/m³N、

◆ 半田西工場(航空宇宙)

■ 大気(大気汚染防止法)

物質	設備	規制値	自主基準値	最大値	最小値	平均値
SOx	ボイラー	1.5	1.2	0.03	0.02	0.03
NOx	"	180	144	31	26	28
ばいじん	"	0.1	0.08	0.002	0.002	0.002

【単位】SOx:m³N/h、NOx:ppm、ばいじん:g/m³N、

4. PRTR

宇都宮製作所(航空宇宙カンパニー・半田工場除く)

(単位: Kg/年、ダイオキシン類のみ、mg-TEQ/年)

物質番号	CAS番号	化学物質名	取扱量	大気排出量	水域排出量(公共用水)	移動量(下水道)	移動量	消費量	除去処理量	リサイクル量
30	25068-38-6	1-クロロ-2,3-エポキシプロパン重縮合物	2,694	152			1,036	1,506		
40	100-41-4	エチルベンゼン	405	112			23	270		
63	1330-20-7	キシレン	5,385	3,330			682	1,373		
227	108-88-3	トルエン	24,951	18,957			3,883	2,111		
69*	none	6価クロム化合物	3,450			7	1,540	1,215	688	
311	none	マンガン及びその化合物	1,175				929	246		
合計			38,060	22,551		7	8,093	6,721	688	

宇都宮製作所(航空宇宙カンパニー・半田工場)

(単位: Kg/年、ダイオキシン類のみ、mg-TEQ/年)

物質番号	CAS番号	化学物質名	取扱量	大気排出量	水域排出量(公共用水)	移動量(下水道)	移動量	消費量	除去処理量	リサイクル量
227	108-88-3	トルエン	1,529	960			197	372		
311	none	マンガン及びその化合物	1,123				449	674		
合計			2,652	960			646	1,046		

宇都宮製作所(エコテクノロジーカンパニー)

(単位: Kg/年、ダイオキシン類のみ、mg-TEQ/年)

物質番号	CAS番号	化学物質名	取扱量	大気排出量	水域排出量(公共用水)	移動量(下水道)	移動量	消費量	除去処理量	リサイクル量
40	100-41-4	エチルベンゼン	6,978	3,240			2,089			1,649
63	1330-20-7	キシレン	19,007	8,327			5,368			5,312
227	108-88-3	トルエン	3,107	1,823			1,176			108
合計			29,092	13,390			8,633			7,069

環境測定データ (3) 埼玉製作所

産業機器カンパニー* 2006年度工場サイトデータ

1. エネルギー、水、廃棄物関係*

■ CO₂排出量

項目	2006年度実績
CO ₂ 排出量(ton-CO ₂)	8,580
1990年度を100とした場合の指数	74.1

電力および化石燃料(重油、軽油、灯油、ガソリン、都市ガス、LPG)の合計使用量を換算しています。
CO₂換算係数の出展:(社)日本自動車工業会(個別に把握した換算係数を使用している場合があります)

■ 水使用量実績

(単位:m³)

項目	2006年度実績
水使用量	33,882
1999年度を100とした場合の指数	88.4

■ 廃棄物・金属くず関係

(単位:ton)

項目	2006年度実績
金属くず	1,310
産業廃棄物・特別管理産業廃棄物	380
直接埋立	0
外部中間処理後埋立	0

※現在、当社には埼玉製作所という組織名称はありませんが、本報告書では便宜上産業機器カンパニーの生産工場を埼玉製作所と称する場合があります。

2. 水質関係

水質測定結果(下水道放流、北本市条例)

項目	規制値	自主基準値	最大値	最小値	平均値
pH	5~9	5.4~8.6	8.7*	7.3	8.3
BOD	600	480	590*	93	222
SS	600	480	190	25	115
n-ヘキサン(動植物油)	30	24	14	3.5	7.8

【記号】……pH:水素イオン濃度、BOD:生物化学的酸素要求量

SS:水中に浮遊または懸濁している直径2mm以下の粒子状物質

【単位】……pH除きmg/ℓ

*pHおよびBODの自主基準値超過についての対応は、web編10ページをご参照ください。

3. 大気関係

大気汚染防止法対象施設は廃棄物焼却炉ですが、2001年9月28日で停止しましたので該当設備はありません。

4. PRTR

産業機器カンパニー

(単位: kg/年、ダイオキシン類のみ、mg-TEQ/年)

物質番号	CAS番号	化学物質名	取扱量	大気排出量	水域排出量	移動量	消費量	除去処理量	リサイクル量
40	100-41-4	エチルベンゼン	1,293	12	0	0	1,281	0	0
43	107-21-1	エチレングリコール	2,394				2,394		
63	1330-20-7	キシレン	6,910	40	0	0	6,870	0	0
227	108-88-3	トルエン	10,517	115	0	0	10,402	0	0
合計			21,114	167	0	0	20,947	0	0

環境測定データ (4) 東京事業所

東京事業所2006年度工場サイトデータ

1. エネルギー、水、廃棄物関係

■ CO₂排出量

項目	2006年度実績
CO ₂ 排出量(ton-CO ₂)	14,474
1990年度を100とした場合の指数	76.9

電力および化石燃料(重油、軽油、灯油、ガソリン、都市ガス、LPG)の合計使用量を換算しています。
CO₂換算係数の出典:(社)日本自動車工業会(個別に把握した換算係数を使用している場合があります)

■ 水使用量実績

(単位:m³)

項目	2006年度実績
水使用量	111,630
1999年度を100とした場合の指数	94.3

■ 廃棄物・金属くず関係

(単位:ton)

項目	2006年度実績
金属くず	116
産業廃棄物・特別管理産業廃棄物	271
直接埋立	0
外部中間処理後埋立	0

2. 水質関係

■ 東京事業所 NO.1排水最終拵

■水質測定結果(下水道放流、三鷹市条例)

項目	規制値	自主基準値	最大値	最小値	平均値
pH	5.7~8.7	5.9~8.4	8.4	7.6	8.0
BOD	300	240	230	13	102
SS	300	240	140	14	69
n-ヘキサン(動植物油)	30	24	16	<5	5.8
全窒素	120	96	52.8	3.7	32.5
全リン	16	12.8	6.3	0.4	3.5

【記号】……pH:水素イオン濃度、BOD:生物化学的酸素要求量
SS:水中に浮遊または懸濁している直径2mm以下の粒子状物質
全窒素・全リンの規制値は日間平均値

【単位】…pH除きmg/ℓ

■ 東京事業所 NO.2排水最終拵

■水質測定結果(下水道放流、三鷹市条例)

項目	規制値	自主基準値	最大値	最小値	平均値
pH	5.7~8.7	5.9~8.4	8.4	7.2	7.9
BOD	300	240	110	1.5	32.8
SS	300	240	67	5	22.4
n-ヘキサン(動植物油)	30	24	10	1	5
全窒素	120	96	38.2	1.0	15.5
全リン	16	12.8	4.2	0.1	1.6

【記号】……pH:水素イオン濃度、BOD:生物化学的酸素要求量
SS:水中に浮遊または懸濁している直径2mm以下の粒子状物質
全窒素・全リンの規制値は日間平均値

【単位】…pH除きmg/ℓ

3. 大気関係

■大気測定結果(大気汚染防止法)

設備	物質	規制値	自主基準値	測定値
技術2号館	NOx	100	80	67
(暖房用)	SOx	対象外	対象外	<0.001
	ばいじん	0.3	0.24	0.001

【単位】NOx:ppm、SOx:mN/h、ばいじん:g/m³N

4. PRTR

東京事業所

(単位:Kg/年)

物質番号	CAS番号	化学物質名	取扱量	大気排出量	水域排出量	移動量	消費量	除去処理量	リサイクル量
40	100-41-4	エチルベンゼン	20,291	0	0	0	20,291	0	0
43	107-21-1	エチレングリコール	3,768	0	0	0	3,768	0	0
63	1330-20-7	キシレン	92,189	2	0	0	92,187	0	0
224	108-67-8	1,3,5-トリメチルベンゼン	12,213	0	0	0	12,213	0	0
227	108-88-3	トルエン	274,571	16	0	0	274,555	0	0
299	71-43-2	ベンゼン	6,821	2	0	0	6,819	0	0
合計			409,853	20	0	0	409,833	0	0

環境測定データ (5) - 1 国内関係会社 (6社)

1. エネルギー、廃棄物関係

■ 2006年度エネルギー使用実績・CO₂排出量

	富士ロビン	輸送機工業	富士機械	イチタン	桐生工業	スバルロジスティクス	6社合計	2001年度を100とした場合の指数
エネルギー使用量 (原油換算kl)	1,271	697	5,213	7,534	276	651	15,642	86
CO ₂ 排出量 (ton-CO ₂)	2,281	300	10,690	12,068	453	1,157	26,949	88

■ 2006年度廃棄物発生量・埋立量

	富士ロビン	輸送機工業	富士機械	イチタン	桐生工業	スバルロジスティクス	6社合計	2001年度を100とした場合の指数
廃棄物発生総量 (ton)	308	113	1,660	5,838	612	550	9,081	63
直接埋立量 (ton)	6.0	4.0	12.5	6.7	0.3	0.5	30	5.8

2. 水質関係 (該当企業)

■ 富士ロビン

項目	規制値	自主基準値	測定値		
			最大値	最小値	平均値
pH	5.8~8.6	6.0~8.5	7.5	7.1	7.3
BOD	最大25日平均20	20	17	3.4	7.8
COD	最大160日平均120	100	11	4.3	6.9
SS	最大160日平均120		3	3	3
n-ヘキサン(鉱物油)	5		1.6	<0.5	0.8
亜鉛	2		<0.2	<0.2	<0.2
溶解性鉄	10		<0.4	<0.4	<0.4
クロム	2		0.4	<0.2	0.2
六価クロム	0.5	0.1	<0.05	<0.05	<0.05
ふっ素及びその化合物	8		5.7	1.6	3.4

【記号】……pH:水素イオン濃度、BOD:生物化学的酸素要求量
SS:水中に浮遊または懸濁している直径2mm以下の粒子状物質
【単位】……pH除きmg/l

■ 輸送機工業

半田市公害防止協定

項目	規制値	測定値		
		最大値	最小値	平均値
COD	(15)	7.1	3	5.5
全窒素	120	4.1	0.9	1.6
全りん	16	0.59	0.16	0.31

【記号】……COD:化学的酸素要求量
【単位】……pH除きmg/l

■ 富士機械

本社工場(下水道法)

項目	規制値	測定値		
		最大値	最小値	平均値
pH	5.7~8.7	7.3	7.0	7.2
BOD	300	16	1	3.6
COD	-	15	3	6.2
SS	300	16	2	6.4
n-ヘキサン(鉱物油)	5	2	1	1.1

【記号】……pH:水素イオン濃度、BOD:生物化学的酸素要求量、COD:化学的酸素要求量
SS:水中に浮遊または懸濁している直径2mm以下の粒子状物質
【単位】……pH除きmg/l

芳賀工場(下水道法)

項目	規制値	測定値		
		最大値	最小値	平均値
pH	5~9	7.2	6.6	6.9
BOD	600	6	1	2
COD	-	8	1	3.9
SS	600	19	2	6.7
n-ヘキサン(鉱物油)	5	1	1	1

【記号】……pH:水素イオン濃度、BOD:生物化学的酸素要求量、COD:化学的酸素要求量
SS:水中に浮遊または懸濁している直径2mm以下の粒子状物質
【単位】……pH除きmg/l

城南工場(水質汚濁防止法)

項目	規制値	測定値		
		最大値	最小値	平均値
pH	5.8~8.6	7.2	6.1	6.9
BOD	20	10	1	3.3
SS	20	5	2	2.4
n-ヘキサン(鉱物油)	3	1	1	1

【記号】……pH:水素イオン濃度、BOD:生物化学的酸素要求量
SS:水中に浮遊または懸濁している直径2mm以下の粒子状物質
【単位】……pH除きmg/l

■ イチタン

工場排水(水質汚濁防止法)

項目	規制値	自主基準値	測定値		
			最大値	最小値	平均値
pH	5.8~8.6	6.0~8.4	7.2	6.7	6.9
BOD	25	20	16	1.3	3.9
SS	50	40	12	<0.1	2.0
n-ヘキサン(鉱物油)	5	4	2.8	<0.1	0.4

【記号】……pH:水素イオン濃度、BOD:生物化学的酸素要求量
SS:水中に浮遊または懸濁している直径2mm以下の粒子状物質
【単位】……pH除きmg/l

■ スバルロジスティクス

納車整備センター排水(公害防止協定)

項目	規制値	自主基準値	測定値		
			最大値	最小値	平均値
pH	5.8~8.6	6.1~8.3	7.63	6.83	7.30
BOD	10	8	8.6*	2.4	4.6
SS	10	8	6	2.7	4.6

【記号】……pH:水素イオン濃度、BOD:生物化学的酸素要求量
SS:水中に浮遊または懸濁している直径2mm以下の粒子状物質
*:BODの自主基準値超過につきましては、1回のみであり適切な管理を実施しています。
【単位】……pH除きmg/l

環境測定データ (5) - 2 国内関係会社 (6社)

3. 大気関係 (各企業)

■ 富士ロビン

大気汚染防止法

特定施設名	測定項目	規制値	自主基準値	測定結果	
				最大	平均
No.11ボイラー	NOx	250	100	56	55
	ばいじん	0.3	0.1	<0.02	<0.02
暖房機	NOx	250	100	70	54
	ばいじん	0.3	0.1	<0.03	<0.03

【単位】NOx:ppm、ばいじん:g/m³

■ イチタン

大気汚染防止法

特定施設名	測定項目	規制値	自主基準値	測定結果	
				6月2日	12月8日
NIII ボイラー	SOx	8	4	0.18	0.36
	NOx	180	90	<33	62
	ばいじん	0.25	0.15	0.009	0.003

【単位】SOx:mN/h、NOx:ppm、ばいじん:g/m³

■ 富士機械

大気汚染防止法

特定施設名	測定項目	規制値	測定値
本社工場 ボイラー	SOx	0.28	<0.01
	NOx	-	65
	ばいじん	-	<0.001
芳賀工場 ボイラー ①	SOx	0.28	<0.01
	NOx	-	60
	ばいじん	-	<0.001
芳賀工場 ボイラー ②	SOx	0.28	<0.01
	NOx	-	71
	ばいじん	-	<0.001

【単位】SOx:mN/h、NOx:ppm、ばいじん:g/m³

■ 輸送機工業

半田市公害防止協定

特定施設名	測定項目	規制値	測定結果
暖房機	ばいじん	0.1	0.002
			0.002
			0.004

【単位】ばいじん:g/m³

桐生工業、スバルロジスティクスには特定施設はありません。

4. PRTR (該当企業)

■ 富士ロビン

物質番号	CAS番号	化学物質名	2006年度		
			取扱量	排出量	移動量
40	100-41-4	エチルベンゼン	1.5	0	0.02
63	1330-20-7	キシレン	8.3	0	0.08
68	none	三価クロム化合物	4.5	0.22	0
69*	none	六価クロム化合物	6.2	0	0
227	108-88-3	トルエン	2.3	0.01	0.15
283	none	フッ化水素及びその水溶性塩	1.7	0.2	0
合計			24.5	0.43	0.25

(注記)PRTR対象事業所ごとにおける年間取扱量が1ton(特定第1種指定化学物質は0.5ton)以上の物質を集計しています。

富士ロビン、輸送機工業を除く他の企業におきましては、PRTR対象化学物質の年間取扱量が1ton(特定第1種指定化学物質は0.5ton)未満となっています。

■ 輸送機工業

物質番号	CAS番号	化学物質名	2006年度		
			取扱量	排出量	移動量
227	108-88-3	トルエン	1.5	1.44	0.03

(注記)PRTR対象事業所ごとにおける年間取扱量が1ton(特定第1種指定化学物質は0.5ton)以上の物質を集計しています。

5. ISO14001 環境マネジメントシステム認証登録状況

企業名	認証取得日	審査機関
富士ロビン	2002年11月	テュフ・ラインランド・ジャパン 株式会社
富士機械	2002年 6月	テュフ・ラインランド・ジャパン 株式会社
イチタン	2004年 3月	JQA (財) 日本品質保証機構
桐生工業	2004年10月	テュフ・ラインランド・ジャパン 株式会社
スバルロジスティクス	2004年 2月	JARI-RB (財) 日本自動車研究所 審査登録センター
輸送機工業	輸送機工業(株)では、2006年8月25日に認証機関(テュフ・ラインランド・ジャパン)に対して、ISO14001の認証書を返上しました。これは当社宇都宮製作所の環境マネジメントシステム活動の一員に加わるための処置であり、2006年10月からは、2007年7月に行われる宇都宮製作所のISO14001更新審査の際に範囲の拡大という形で、受審するための準備を進めています。	

群馬製作所



本工場

矢島工場

太田北工場

大泉工場

伊勢崎工場

■ 各工場の概要

(2007年3月末現在)

工場名	所在地	土地面積 (m ²)	建物面積 (m ²)	従業員数 (人)	主な生産品目
本工場	群馬県太田市スバル町1-1	585,521	319,360	2,937	ステラ、R1、R2、プレオ、サンバー
矢島工場	群馬県太田市庄屋町1-1	549,845	256,864	2,549	レガシィ、インプレッサ、フォレスター
太田北工場	群馬県太田市金山町27-1	43,750	26,841	83	自動車用部品
大泉工場	群馬県邑楽郡大泉町いずみ1-1-1	376,038	179,984	1,485	自動車用発動機(エンジン)、自動車用変速機
伊勢崎工場*	群馬県伊勢崎市末広町100	149,236	58,957	72	自動車用補修部品

*スバルカスタマイズ工房株式会社、富士ハウレン株式会社を含む

1. 群馬地区*の環境方針

当社企業理念および全社環境方針を受け、群馬地区では環境方針を策定し、環境保全活動に積極的に取り組んでいます。

一 群馬地区※ 環境方針 一 [2002年6月改訂]

富士重工株式会社 群馬地区は豊かな自然を守り、次世代に引き継ぐため環境にやさしい「クルマづくり」を目指し「クリーンなスバル」を「クリーンな工場」から提供します。

- (1) 自動車部門における環境への影響を考慮して、積極的な環境保全に努めます。
- (2) 関連する法規制・地域協定・業界規範を順守すると共に、環境上の目的・目標を定めて自主的な活動に取り組めます。
- (3) 「継続的な改善と汚染の未然防止」が重要であることを認識し、一人一人が自覚と責任をもって行動します。
- (4) 環境に関し、階層・職種に応じた教育を推進し、環境意識の定着を図ります。
- (5) 計画的な監査・診断を実施し、環境保全活動の更なる向上を図ります。
- (6) 社会の一員として、地域や社会との交流を図ると共に、環境保護活動に積極的に協力します。



※「群馬地区」とは、自動車の生産拠点である群馬製作所を中心に、同製作所に所在するスバル技術本部の本社組織、および、栃木県佐野市に所在するスバル研究実験センター、ならびに、太田市朝日町に所在するスバル部品センターを範囲としたISO14001環境マネジメントシステムの外部審査適用範囲の総称です。

2. 2006年度の主な環境保全活動実績

◇ 地球温暖化防止活動

2006年度は、塗装工程の温度見直し・脱湿装置省エネ改善や、部品洗浄機の省エネ改善などを実施し、CO₂排出量は1990年度比15.7%(前年度比3.2%)低減しました。水資源については配管の調査・改善を行い、1999年度比50.1%(前年度比5.1%)低減しました。また、2007年2月には大泉工場に天然ガスコージェネレーションシステムを2基導入しました。この導入により、2007年度からは14千tonのCO₂削減を見込んでいます。

◇ 廃棄物削減活動

廃棄物削減につきましては、廃棄物が発生する量を削減する活動を進めています。2006年度は、汚泥発生量の抑制などにより、金属くずを除く発生量を2005年度比117ton削減しました。

◇ 公害防止活動

2006年度は、苦情はゼロでしたが、化学物質の流出事故5件と騒音測定の自主基準値超過1件が発生しました。全てゼロを目標に、環境リスクアセスメントや工事業者教育を更に推進していきます。また、塗装工程などから排出されるVOCは、第3次環境ボランティアプラン目標を達成しました。今後、第4次環境ボランティアプランに沿った新しい目標の達成を目指して活動を進めていきます。



大泉工場に導入した天然ガスコージェネレーションシステム

3. 環境監査結果

◇ 環境マネジメントシステムにもとづく内部監査の結果

2006年7月12日～10月23日の期間に、群馬地区全部門を70部署に区分して、全ての部署を対象として内部監査を実施しました。

あわせて、同期間中に環境関連法規を管理する7部署に対して、法令順守監査を実施しました。

是正処置要求事項は85件発生しました。是正処置とともに予防処置も進め、群馬地区全体のレベルアップを図っています。

今後も、内部監査員の力量向上と内部監査の仕組みの改善をさらに進めていきます。



外部審査

◇ ISO14001外部審査結果

2007年1月22日～1月24日の期間に、ISO14001継続審査を受審し、軽微な不適合1件、観察事項5件の指摘を受けましたが、直ちに是正措置を行ったことにより、ISO14001の認証継続が確認されました。

4. 2006年度 地域での主な活動 <社会貢献>

◇ コミュニケーション

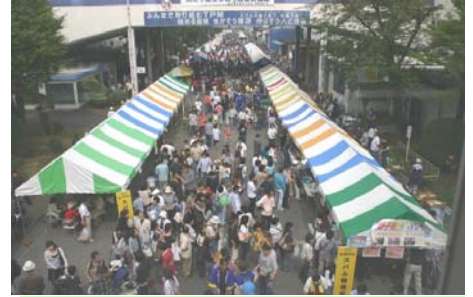
◆ 群馬製作所では、地域社会との共生を通じて、豊かな社会づくりに貢献してゆくことを目指して、ふれあい行事、交流会、工場見学受け入れ、あるいは地域清掃活動、地域イベントへの参加など、さまざまなかたちで地域の皆さまとのコミュニケーションを積極的に図っています。ここでは、2006年度の主な活動をご紹介します。



5月 スバル地域交流会で参加した金山清掃活動



7月「おおた夏まつり」にはスバルみこして1,000名参加



10月 矢島工場に35千人集めて開催したスバル感謝祭



年4回開催 スバル地域交流会 花配布活動



年4回開催したスバル地域交流会主催「ふれあいコンサート」(計2,000名招待)



地域の28小学校で開催したスバル環境交流会(計2,282名参加)

- 内容
1. 会社紹介
 2. 今地域に起こっていること(ビデオ9分)
 3. 体験してみよう
 4. スバルの環境への取り組み
 5. 環境クイズ(賞品)

◇ 教育・啓発活動など

◆ 群馬製作所では、職種・階層に応じた教育や訓練を実施しています。また、関係会社・お取引先支援の一環としてさまざまな教育も実施しています。



6月 関係会社・お取引先対象の安全衛生・環境教育(26社26名参加)



7月に開催したスバル地域交流会主催「交通安全講習会」

◇ その他

- ◆ 地域の太田東高校・館林商業高校などに講師を派遣し、自動車技術や社会人としての心構えなどについて講演を行いました。
- ◆ 毎年6月の環境月間に合わせて、所内で販売する飲料用自動販売機の紙コップを「当社グループ環境シンボルマーク」を印刷したものに切り替え、環境保全活動への啓発を図っています。[右図]
- ◆ 12月 近隣地区長交流懇親会を開催。群馬製作所の環境対応状況の説明や、近隣にお住まいの方々のご要望などを伺うため、毎年開催しています。



スバルグループ環境シンボルマークをデザインした紙コップ ※宇都宮製作所・東京事業所にも展開しています。

宇都宮製作所 [航空宇宙カンパニー・エコテクノロジーカンパニー]



本工場



南工場



南第2工場



半田工場

■ 各工場の概要

(2007年3月末現在)

工場名	所在地		土地面積 (m ²)	建物面積 (m ²)	従業員数 (人)	主な生産品目
本工場	栃木県宇都宮市陽南1-1-11	航空宇宙カンパニー	337,802	176,877	2,040	航空機、無人機、宇宙関連機器
南工場	栃木県宇都宮市江首島1388-1					航空機
第2南工場	栃木県宇都宮市宮の内2-810-4					航空機
本工場	栃木県宇都宮市陽南1-1-11	エコテクノロジーカンパニー	171,816	50,614	187	塵芥収集車、風力発電システム、ロボット ^{*2} 等
半田工場	愛知県半田市潮干町1-27		49,041	20,092	176	航空機

※1:現在、当社では「宇都宮製作所」という組織名称はありませんが、本報告書では航空宇宙カンパニー(栃木県宇都宮市、愛知県半田市)とエコテクノロジーカンパニー(栃木県宇都宮市)の総称として「宇都宮製作所」を使用しています。

※2:清掃ロボットなどにつきましては、当社 クリーンロボット部に取扱いしています。

1. 宇都宮製作所の環境方針

当社企業理念および全社環境方針を受け、宇都宮製作所では環境方針を策定し、環境保全活動に積極的に取り組んでいます。

一 宇都宮事業所※ 環境方針 一 [2005年6月改訂]

富士重工業(株)宇都宮事業所(航空宇宙カンパニーとエコテクノロジーカンパニー)は、企業活動と地球環境の調和をめざし、環境保全への積極的な取り組みを通して、豊かな社会の実現のため、以下の方針を定めます。

- (1) 環境への負荷の少ない循環型社会実現に寄与するため、製品の開発・設計の段階から生産・物流・サービス、廃棄などの全段階における環境負荷低減に努めます。
- (2) 企業活動の遂行においては、関連する法規制、地域協定、業界基準を遵守するとともに、それらに加えて、自主管理基準を制定して環境保全に取り組めます。
- (3) 環境保全への目的・目標を設定して自主的な活動に取り組み、定期的なレビューを行いながら、継続的な改善につなげます。
- (4) 地球温暖化防止と環境汚染予防の重要性を認識し、地球温暖化物質・環境汚染物質などの排出抑制および廃棄物の減量化、再資源化を図ります。
- (5) 社会の一員として、地域や社会との交流を図ると共に、環境保護活動に積極的に協力します。
- (6) 組織で働く又は組織のために働くすべての人々の環境教育・啓発を通して、一人一人が環境への自覚と責任を持って行動します。
- (7) 環境情報を積極的に公開し、地域や社会との相互理解、コミュニケーションを推進します。

2. 2006年度の主な環境活動実績

◇ 地球温暖化防止活動

航空宇宙カンパニー:半田西工場のエネルギー使用量増加などにより、前年度よりCO₂排出量は約3千ton-CO₂増加しましたが、1990年度比では7.6%の低減となっています。今後は第4次環境ボランティアプラン達成に向けてCO₂低減活動を進めていきます。

エコテクノロジーカンパニー:工場内照明の省エネ化などの取り組みにより、前年度よりCO₂排出量は約900ton-CO₂削減できました。1990年度比では67.7%の低減となっています。今後はエネルギー多量消費設備などの省エネ活動を中心に、さらなる低減を目指します。

◇ 廃棄物削減活動

航空宇宙カンパニー:梱包用廃木材・塗装工程廃液・一般雑介などの増加により、発生量が前年度より445ton増加してしまいました。これらの削減を主体にして、コストを絡めた低減活動を進めていきます。

エコテクノロジーカンパニー:段ボールのリユース、シンナーのリサイクル化拡大などの活動により、発生量は前年度より16ton低減できました。今後は金属くずなどの発生自体を抑制する活動を進めます。

◇ 公害防止活動

2006年度には、宇都宮製作所として苦情を8件*受けました。環境事故防止も含めて「環境パトロール」などを実施しておりますが、防ぐことができませんでした。対策として「環境事故防止管理要領」を発行、その他削減に向けた活動を進めています。

*:苦情の内容につきましてはWebデータ編の9ページをご参照ください。

3. 環境監査結果

◇ 環境マネジメントシステムにもとづく内部監査結果

2006年5月および10～11月の期間に、宇都宮製作所(航空宇宙・エコテクノロジー合同)で計87部署の内部監査を実施しました。その結果、是正処置要求事項は計44件発生しました。是正処置要求を受けた部署は直ちに処置を実施し、EMSの完成度を向上させています。

◇ ISO14001外部審査結果

2006年6月21日～23日の期間に、ISO14001継続審査を受審し、改善が必要な事項16件を受けましたが、軽微なものも含め不適合はゼロで、ISO14001の認証継続が確認されました。

また、2007年度には関係会社の「輸送機工業(株)」を適用範囲とするため、範囲の拡大審査を受審します。



外部審査

4. 2006年度 地域での主な活動

◇ コミュニケーション

◆宇都宮製作所では、社会の一員として周辺地域や社会との共生を図り、ともに繁栄していくことが大切であると認識しています。地域とのふれあい行事や、交流会の開催、クリーン活動、各種募金への積極的な協力など、さまざまなかたちで地域貢献を行っています。ここでは、2006年度の取り組み、活動の一部をご紹介します。

- ・6月、10月 地域の清掃活動に協力(延べ330名参加)
- ・10月 本工場に約10千名を集めて、「富士重工 ふれあい祭り」を開催
- ・10月「うつのみや エコ・プロジェクト2006」に環境PRブースを出展し、宇都宮製作所の環境保全取り組みを紹介
- ・11月 近隣自治会役員(13名)との交流(工場見学、懇親会)

・2006年度より、地域の小学校への環境出前教室を開始しました。今年度は、宇都宮市内のうち、5校の小学5年生(計358名)を対象に地球温暖化に関する教育を行いました。今後、順次対象を拡大していく予定です。

・毎年行っている「緑の募金」活動では、今年10月に県緑化推進委員会に、従業員の善意で集まった310,355円を寄付しました。

・6月の環境月間取り組み行事として、職場ごとの全員参加による環境取り組みチェックを行い、省エネ・省資源・ゼロエミ・公害防止活動の取り組み意識向上を図りました。



10月「うつのみや エコ・プロジェクト」に出展した宇都宮製作所の環境PRブース

◇ 教育・啓発活動など

・宇都宮製作所では、人事階層別教育をはじめさまざまな機会を捉え従業員への環境教育、内部監査員教育、フォローアップ教育などを計画的に実施しています。また、地域の関係会社・お取引先支援の一環として、環境パトロール(2006年度6社実施)などを積極的に実施しています。

・毎年定期的に「環境事例発表会」を開催し、各職場の優秀な改善事例について活動内容や成果の発表を行っています。さらに、各職場では事故の未然防止に向けた管理の徹底と、万一の環境事故発生時に環境影響を最小限に抑えるため繰り返し訓練を実施しています。



お取引先での環境パトロール



毎年開催している環境事故、火災などの緊急事態に備えた訓練

◇ その他

◇ 当社従業員が、宇都宮市内で発生した「小学生殺人未遂事件」容疑者現行犯逮捕に協力 ～～栃木県警より感謝状が授与されました～～



2006年10月:宇都宮市江曾島で、集団登校中の小学生の列に車で突っ込み、止めにはいった宮沢さんをナタで切りつけるなどとした事件で、勇気あふれる行為で容疑者現行犯逮捕に協力した、当社従業員の宮沢さんと当社勤務(派遣社員)の酒匂さんの二人に対して、栃木県警察本部長より感謝状と記念品が贈られました。また、当社としてもこの功績を称え、12月に社長表彰も贈られました。

◇ 宇都宮製作所サイトレポート(2006年8月発行)



埼玉製作所*



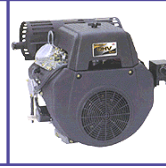
産業機器カンパニー*埼玉製作所

産業機器カンパニーの代表製品

EX17



EH65



SGi14



SGi28



ロビンエンジン

発電機

充電式草刈機

(2007年3月末現在)

■ 工場の概要

工場名	所在地	土地面積 (m ²)	建物面積 (m ²)	従業員数 (人)	主な生産品目
産業機器カンパニー*	埼玉県北本市朝日4-410など	143,438	91,942	549	ロビンエンジン、エンジン発電機など

*現在、当社には埼玉製作所という組織名称はありませんが、本報告書では便宜上産業機器カンパニーの生産工場を埼玉製作所と称する場合があります。

1. 産業機器カンパニーの環境方針

当社企業理念および全社環境方針を受け、産業機器カンパニーでは環境方針を策定し、環境保全活動に積極的に取り組んでいます。

一 産業機器カンパニー環境方針 一 [2005年5月改訂]

当カンパニーはエンジンエンジンおよび応用製品に対し、開発から廃棄にいたるまでのすべての活動において、地球環境保全を積極的に推進し、豊かな未来の実現を目指します。

- (1) 開発、設計から物流、廃棄段階における環境負荷の低減を図ります。
- (2) 関連する法規制、地域協定、業界規範を順守するとともに、環境保全への目的・目標を定めて自主的な活動を図ります。
- (3) 「継続的な改善と汚染の防止」が重要であることを認識し、一人一人が自覚と責任を持って行動します。
- (4) 環境に関し、階層・職種に応じた教育を推進し、環境意識の定着を図ります。
- (5) 計画的な監査・診断を実施し、環境保全活動の更なる向上を図ります。
- (6) 地域社会との交流を図り、環境保護活動に積極的に協力します。

2. 2006年度の主な環境活動実績

◇地球温暖化防止活動

2006年度は、石油系エネルギーの低減により、CO₂排出量は前年度比167ton削減できました。1990年度比では26%の低減となっています。今後も、工場用エア配管の漏れチェックなどの改善を積み上げて、さらなるCO₂排出量の低減を進めます。

◇廃棄物削減活動

2006年度は、廃油の削減などにより、発生量は前年度より15ton削減できました。2007年度には、金属研磨屑圧縮装置の導入、金属切削油長寿命化などの施策を進めて、さらに発生量の抑制を図ります。

◇公害防止活動

環境事故ならびに苦情につきましてはゼロの継続ができましたが、法規制値・自主基準値超過は3件発生*してしまいました。いずれも適切な是正処置を行い管理しています。今後は、基準値超過・苦情・環境事故すべてゼロを目標に環境リスクアセスメントの実施などを進めていきます。

*: 基準値超過の内容につきましてはwebデータ編の10ページをご参照ください。

3. 環境監査結果

◇環境マネジメントシステムにもとづく内部監査結果

2006年度9月13日～10月4日にかけて、18部署で内部監査を実施いたしました。結果は、不適合1件、推奨項目17件となりましたが、全て是正対策は完了しています。

◇ISO14001外部審査結果

2007年2月5日～6日、ISO14001継続審査を受審しました。結果は、推奨項目10件をうけましたが、不適合はゼロで、ISO14001の認証継続が確認されました。



外部審査

4. 2006年度 地域での主な活動

◇コミュニケーション



工場周辺のクリーン活動
北本市による「ピカピカきたもとおまかせプログラム」へ参加しており、工場周辺の清掃活動を行っています。2006年度は延べ7回合計819名が参加しました。



地域行事への積極的な参加
北本宵まつり(北本市主催: 11月4日)に当社従業員とその家族約300人が「ねぶた曳き」に参加しました。今年も大いに盛り上がりました。

◇ 教育・啓発活動など

- ◆ 環境月間の取り組み ―「エコライフ DAY 2006 埼玉」への参加―
「エコライフDAYチェックシート」に基づいて家庭でできるエコライフの実践確認を行いました。チェックは全20項目あり、その内“水は流しっぱなしにしない”、“部屋を出るときは明かりを消した”など、5つの項目で80%以上の方が実践できたという結果が得られました。なお、2007年2月には「エコライフDAY2006冬バージョン」を展開しました。
- ◆ 緊急時対応訓練
各職場で事故や緊急事態が発生した場合でも、環境への影響を未然に防止、あるいは適切な対応が確実にできるようにするため手順に基づいた訓練を行っています。2006年度も、技術部の第1～第3実験課などで緊急時対応訓練を実施しました。
- ◆ 従業員教育
従業員対象の環境教育は、人事階層別教育を中心に新入社員14名をはじめ計57名に実施しました。また、交通安全講話も開催しています。
- ◆ 省エネルギー実施事例発表 関東地区大会に参加【2006年9月26日】
産業機器カンパニー小集団活動サークルのエコロジーサークルが「マンホール湧水の多段利用とコンプレッサー室排熱の暖房利用化」について発表を行いました。なお、本大会には当社群馬地区からも参加しており、3サークルが発表を行っています。



交通安全講話会

5. 環境機器カンパニー 新商品紹介

- ◆ 産業機器カンパニーでは2007年2月に、さらなる人と環境との調和を目指した「スバル充電式草刈機 e-カッターPRO」を発売いたしました。ここでは、本商品を簡単にご紹介させていただきます。



充電式草刈機「e-カッターPRO」※



専用充電器 / 専用バッテリー



※e-カッターPRO

- 3つの「e」 ENVIRONMENT FRIENDLY: 排出ガスゼロ 低騒音で人・地球に優しい
- ELECTRIC : リチウムイオン電池搭載 急速充電可能
- EASY(for user) : 逆回転機能つきで使いやすい

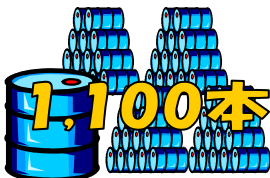
「PRO」 従来の電動式は園芸仕様としてのものでありコンシューマ向けが主でした。
: 本製品は、仕事として扱うユーザーをも満足させる性能を持ったものとしています。

「e-カッターPRO」に搭載されている高性能ブラシレスモーターや制御システムには、スバルインバータ発電機で培った技術が展開されています。また、電気自動車「スバルR1e」の技術を転用した大容量リチウムイオン電池を採用することで従来の二次電池に対して軽量・コンパクト化を図り、環境配慮と実用性の高度な両立を実現しています。

特徴1: 排出ガスゼロ

同クラスのエンジン式刈払機との比較では、プロユースに相應る作業性能はそのままに、「排出ガスゼロ」。地球環境にやさしい商品です。

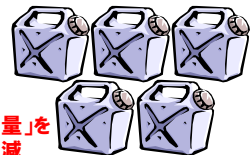
一般的なエンジン式刈払機(2ストロークエンジン搭載機)に比べ、



※1台あたりの「二酸化炭素排出量」を
年間でドラム缶1100本分割減

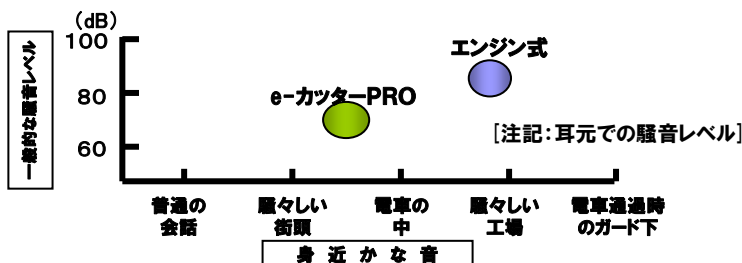
※1台あたりの「HC+NOx排出量」を
年間で18Lポリタンク5個分割減

[注記: 1日4時間で年100日使用とした場合の数値です]



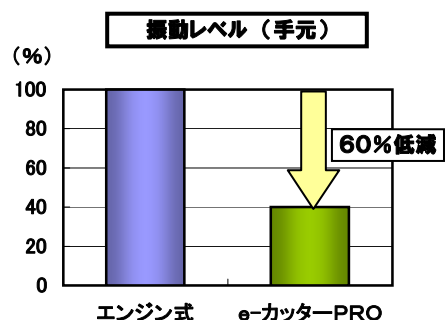
特徴2: 低騒音

「電動化」により騒音レベルを大幅に低減。作業場所や時間帯にとらわれない高い作業環境を実現しました。



特徴3: 低振動

滑らかな回転による振動レベルの低減は作業者への負荷を大幅に軽減しています。



東京事業所



←2006年4月に発行した
東京事業所サイトレポート

■ 東京事業所の概要

(2007年3月末現在)

工場名	所在地	土地面積 (m ²)	建物面積 (m ²)	従業員数 (人)	主な生産品目
東京事業所	東京都三鷹市大沢3-9-6	157,568	94,354	943	自動車用エンジン、トランスミッションの研究開発・実験、スバル製品の研究

1. 東京事業所の環境方針

当社企業理念および全社環境方針を受け、東京事業所では環境方針を策定し、環境保全活動に積極的に取り組んでいます。

— 東京事業所 環境方針 — [2003年9月制定]

富士重工業株式会社東京事業所は、豊かな自然を守り次世代に引き継ぐため、環境にやさしい“クルマづくり”を目指し、「クリーンなパワーユニット」を提供します。

環境方針を実現するための運営基準を次のように定める。

- (1) 自動車部門における環境への影響を考慮して、積極的な環境保全に努めます。
- (2) 関連する法規制・地域協定・業界規範を遵守すると共に、環境上の目的・目標を定めて自主的な活動に取り組みます。
- (3) 「継続的な改善と汚染の未然防止」が重要であることを認識し、一人一人が自覚と責任をもって行動します。
- (4) 環境に関し、階層・職種に応じた教育推進し、環境意識の定着を図ります。
- (5) 計画的な監査・診断を実施し、環境保全活動の更なる向上を図ります。
- (6) 社会の一員として、地域や社会との交流を図ると共に、環境保全活動に積極的に協力します。



2. 2006年度の主な環境活動実績

◇地球温暖化防止活動

2006年度は、ボイラーの小型化・低電力照明器具の導入などの省エネ施策を実施しましたが、開発部門実験設備の高稼働などの要因により、CO₂排出量は前年度比14.7ton増加しました。ただし、1990年度比では23.1%低減しています。今後は、実験設備の高稼働を前提とした省エネ施策を進めていきます。

◇廃棄物削減活動

廃棄物の発生量につきましてもCO₂同様開発部門の高稼働などにより、前年度比1.9ton増加しました。ただし、今年度の目標値比では6.3ton少ない量で収まっています。これは一般雑用紙や事務用紙の削減などの効果によるものです。

◇公害防止活動

2006年度には、油脂類の流出による構内環境事故が2件*発生してしまいました。対策として手順及びチェックシートの改訂などの対応を図りました。

*：環境事故の詳細につきましては、WEBデータ編10ページをご参照ください。

3. 環境監査結果

◇環境マネジメントシステムにもとづく内部監査結果

2006年10月16日～11月8日の間に、事業所内全部署（18区分）を対象に内部環境監査を実施しました。結果、不適合4件、観察項目46件が抽出されました。不適合については是正処置を行い、その効果の確認までを実施しました。

◇ISO14001外部審査結果

2007年1月17日～19日に、ISO14001更新審査を受審し、不適合3件・改善推奨事項27件の結果となりました。ただし重大な不適合はありませんでしたので、ISO14001の認証継続が確認されました。

4. 2006年度 地域での主な活動

東京事業所では、社会の一員として地域や社会との共生を通して、豊かな社会づくりに貢献していくことを目指し、事業所見学を通じた小学校対象社会科授業のお手伝い、地域とのふれあい行事、交通安全教室の開催などを積極的に行っています。ここでは2006年度の主な活動をご紹介します。



8月 近隣の方にもご参加いただき開催した納涼祭



11月 小学生事業所見学会
(小学5年生の社会科授業支援)



2007年3月 実験棟の「優良防火対象物
認定書」交付式(三鷹消防署より)



コンプライアンス教育の様子



緊急事態訓練



三鷹警察白バイ隊による安全運転教室

本社※



新宿サイト



大宮サイト

■ 本社の概要

(2007年3月末現在)

工場名	所在地	土地面積 (m ²)	建物面積 (m ²)	従業員数 (人)	事業内容
新宿サイト	東京都新宿区西新宿1-7-2	1,600	7,241	520	スバル製品の企画、マーケティングおよび販売ならびにコーポレート部門
大宮サイト	埼玉県さいたま市北区宮原町1-1-2	84,853	4,255	39	

※「本社」とは、スバル製品の企画、マーケティングおよび販売ならびにコーポレート部門を行う新宿サイトと、スバルパーツ製品のマーケティングおよび販売、ならびにスバルITシステムの開発および構築を行う大宮サイトを範囲としたISO14001環境マネジメントシステムの外部審査適用範囲の総称です。

1. 本社(新宿サイト・大宮サイト)の環境方針

当社企業理念および全社環境方針を受け、本社(新宿サイト・大宮サイト)では環境方針を策定し、環境保全活動に積極的に取り組んでいます。

一 新宿サイト・大宮サイト 環境方針 — [2003年7月制定]

常に環境と事業活動の深い関わりを認識し、地球と社会と人によさしい商品と環境づくりに努め、豊かな未来の実現を目指します

- (1) 新宿サイトにおける、商品の企画・開発・設計・製造・販売・サービス・廃車などの各段階に関わるオフィス活動での環境への影響を考慮して、積極的な環境保全に努めます。
- (2) 関連する法規制・地域協定・業界規範を順守すると共に、環境上の目的・目標を定めて自主的な活動に取り組めます。
- (3) 「継続的な改善と汚染の未然防止」が重要であることを認識し、一人一人が自覚と責任をもって行動します。
- (4) 環境に関し、階層・職種に応じた教育を推進し、環境意識の定着を図ります。
- (5) 計画的な監査・診断を実施し、環境保全活動のさらなる向上を図ります。
- (6) 社会の一員として、地域や社会との交流を図るとともに、環境保護活動に積極的に協力します。



2. 2006年度の主な環境活動実績

◇ 地球温暖化防止活動

CO₂の排出量は、従来からのこまめな省エネ活動の積み重ねで、2006年度は524.2ton-CO₂となり、前年度比4.7%の削減ができました。2006年度も、クールビズ活動などを導入し、省エネに取り組みました。

◇ 廃棄物削減活動

2006年度は、販売促進物件(カタログなど)の排出量は56.3tonとなり、前年度比45%の低減が図れました。なお、全量リサイクルを継続しています。また、一般可燃物・雑介などの排出量は19.5tonとなり、前年度比4.4%の低減が図れました。今後も年1%以上の低減に取り組んでいきます。

3. 環境関連法規制違反、行政指導、苦情などについて

該当事項はありませんでした。

4. 環境監査結果

◇ 環境マネジメントシステムにもとづく内部監査の結果

2006年10月14日～19日の期間に、本社地区全部門を32部署に区分して、全ての部署を対象として内部監査を実施しました。是正処置要求事項は45件発生しました。是正処置の実施とともに、内部監査結果報告書により本社地区内に水平展開を図り、全体のレベルアップを図っています。

◇ ISO14001外部審査結果

2006年12月6日～8日、ISO14001更新審査を受審し、観察事項16件の指摘を受けましたが不適合はゼロでISO14001の認証継続が確認されました。

5. 2006年度地域での主な活動

本社地区での活動の一部をご紹介します。



6月に開催した大宮サイトISO14001 2006年度キックオフ式



7月に開催した業務改善事例発表会の様子
毎年行い、優秀事例の水平展開を実施しています



8月に開催したISO14001内部監査員養成教育



12月ISO14001更新審査
不適合ゼロで認証継続が確認されました

国内関係会社

富士重工業は、国内の関係会社のなかで環境負荷が多い製造関係および輸送関係の6社による「国内関連企業部会」を組織しています。この部会は、年2回以上定期的に開催して企業間の活動事例の共有化、水平展開を図り、効率的で合理的な環境活動を推進しています。

■ 各企業の概要

(2007年3月末現在)

企業名	所在地	従業員数(人)	主な生産品目
富士ロビン(株)	静岡県沼津市大岡35	268	農林業機器・エンジン・消防ポンプ・付属用補用品の製造、修理、販売
輸送機工業(株)	愛知県半田市上浜町102	80	航空機部品、クレーン車の製造、販売
富士機械(株)	群馬県前橋市岩神町2-24-3	406	自動車部品・産業機械・農業用トランスミッションの製造、販売
(株)イチタン	群馬県太田市新道町74	201	自動車・産業機械用鍛造品の製造、販売
桐生工業(株)	群馬県桐生市相生町2-704	129	スバル特装車の製造・スバル用部品の物流管理
(株)スバルロジスティクス	群馬県太田市朝日町558-1	153	自動車およびその部品の梱包、出荷、陸送業、倉庫業、整備業、保険代理店業

1. 主な部会活動実績

2006年度は、8月4日と11月6日に部会を開催しました。この部会では、・廃棄物の削減・地球温暖化防止・省エネの目標が達成できたことを確認しました。

◇8月開催の通算第12回部会の主な報告・討議内容

- ・当社からの報告事項：総合環境委員会概要、第4次環境ボランティアプラン、公害防止と発生時の対処など。
- ・各社の2005年度環境保全活動実績および2006年度計画について

◇11月開催の通算第13回部会の主な報告・討議内容

- ・各社2006年度上期の実績および年度の見込みについて
- ・省エネ好事例の紹介、など

*2007年5月11日に通算第14回部会が開催され、2006年度は・廃棄物の削減・地球温暖化防止・省エネの各項目で目標達成できたことを確認しました。実績データにつきましては、webデータ編20ページをご参照ください。

2. 主な環境活動実績

◇環境マネジメントシステム構築

国内関連企業部会6社はすでにISO14001環境マネジメントシステムの認証を取得し、教育、訓練、特定施設の法令順守活動、内部監査など、汚染の未然防止と環境負荷の低減に向けた取り組みを進めています。なお輸送機工業につきましては2006年8月にISO14001認証を返上し、2007年度に当社宇都宮製作所のISO14001認証範囲に参入するための準備を進めています。

◇地球温暖化防止活動

温暖化防止活動では、CO₂排出量は2006年度6社合計で26,949ton-CO₂となり、前年度と比べ4.3%削減しました。

◇廃棄物削減活動

廃棄物削減活動では、処理方法の見直しやきめ細かな分別活動の推進により、各社合計で埋立て廃棄物のゼロレベルを達成しています。(2006年度埋立量実績30ton、前年度比-29ton)

※各社のデータにつきましては、webデータ編20～21ページに掲載しております。

3. 環境関連法規制違反(自主基準値超過)、行政指導など

◇環境関連法規制違反・自主基準値の超過につきまして

◆(株)イチタン：2007年1月の騒音測定値のうち、①工場西側境界夜間騒音測定値が51dbと騒音法規制値の50dbを超過、②スポーツプラザ駐車場側敷地境界騒音測定値が52dbと同法規制値の50dbを超過しました。対策として、①は、3月に騒音発生源であるコンプレッサーを静音型に交換し、②については、夜間の扉開放規制を実施し、引き続き監視しています。なお、本件に関して騒音苦情などは受けておりません。

◆(株)スバルロジスティクス：2007年2月の水質測定値のうち、BOD(生物化学的酸素要求量)の値が、8.6mg/ℓと自主基準値の8mg/ℓを超過しました。本件につきましては引き続き原因調査と管理を続けています。なお、翌3月の測定値は4mg/ℓと自主基準値以内となっています。

◆上記以外の測定結果、他4社の測定結果につきましては、環境法規制違反・自主基準値の超過はありませんでした。

◇行政指導・勧告などにつきまして

◆2006年度、6社とも行政からの指導はありませんでした。

◇PCB含有機器などの保管状況につきまして

◆富士ロビン(株)、輸送機工業(株)、(株)イチタン、桐生工業株の各社で、管理台帳と共に適正に保管しています。

4. 環境に関する苦情・事故など

◆環境に関する苦情につきましては、2006年度受けておりません。

◆輸送機工業(株)において下記の通り1件の構内事故が発生しました。他5社では事故の発生はありませんでした。

：2006年12月14日、金属スクラップ回収業者がコンテナ内にたまっていた油を誤って構内路面に飛散させ、雨水と共に、終末排水処理槽に流入させるという構内油流出事故が発生しました。発見後、処理槽にたまった表層含油水40ℓをくみ取り除去。対策として①屋外のスクラップコンテナに蓋取り付け、②屋内用スクラップコンテナの製作、③回収作業時の社員立会い実施を図りました。

5. 環境監査結果

◇ ISO14001外部審査結果

各企業ごとに審査を受審し、軽微な不適合、観察事項の指摘を下記のように受けましたが、直ちに是正措置を行っております。

企業名	実施日	不適合	観察事項
富士ロビン(株)	2006年11月14～16日	4	59
*輸送機工業(株)につきましては、30ページ2.主な環境活動実績をご参照ください			
富士機械(株)	2006年8月22～24日	4	0
(株)イチタン	2007年1月23～26日	2	7
桐生工業(株)	2006年10月18～19日	0	7
(株)スバルロジスティクス	2006年11月7～10日	0	2

(株)スバルロジスティクスでは、今回の審査で福岡納整センターを認証範囲に加えました。(範囲の拡大審査)
次回2007年度の審査では、土岐納整センターを認証範囲に加えることにより、全事業所認証取得完了を目指しています。

(各企業のISO14001環境マネジメントシステム認証登録年月、審査機関などのデータにつきましてはWebデータ編21ページをご参照ください)

6. 2006年度 地域での主な活動

◇ コミュニケーション

◆ 各社共、会社周辺の美化、清掃活動を定期的的に実施しております。ここでは、その一部をご紹介します。



桐生工業(株)

(株)スバルロジスティクス
事業所周辺の清掃活動



(株)イチタンの関係会社の九州イチタン(大分県宇佐市院内町櫛野895)では、2006年6月に従業員90名が参加して、会社周辺の道路の草刈を行いました。

◆(株)スバルロジスティクスと(株)イチタンの2社は、スバル地域交流会※活動にも参加しています。

※スバル地域交流会:富士重工とその取引先54社からなる組織で、太田市と周辺住民との相互交流、並びに地域発展を図り「住みよい街」づくりに貢献することを目的として、さまざまな地域貢献活動を行っています。
活動内容はホームページでもご覧いただけます。[http://www.chiiki-kouryuukai.com/index.html]

7. 環境教育、啓発、緊急時対応訓練実施状況など

◆ 各社共、環境に関する教育や、さまざまな緊急事態に備えた訓練を実施しています。

企業名	実施日	内容	参加人数	実施日	内容	参加人数
富士ロビン(株)	9月5日	ISO14001に関する教育	6名	11月7日	タンク、メッキ設備緊急訓練	26名
輸送機工業(株)	1月10日	劇毒物取り扱い教育	11名	-	-	-
富士機械(株)	4月3日	環境基礎教育	6名	11月29日	ガス漏れ緊急対応訓練	25名
(株)イチタン	10月19日	環境内部監査教育	38名	12月15日	防災緊急対応訓練	131名
桐生工業(株)	6月26日	ISO14001内部監査員教育	2名	12月13日	防災緊急対応訓練	110名
(株)スバルロジスティクス	10月1日	環境経営方針について	127名	11月23日	防災緊急対応訓練	118名

上記表では実施項目の一部を紹介しており、これ以外にも教育・訓練を実施しています。



桐生工業(株)

防災緊急対応
訓練実施



(株)スバルロジスティクス

◆(株)スバルロジスティクスの環境改善

モータープール内水路の木製側壁が腐食し、水流の妨げになっていたため、2005年度から順次改善を進めてきました。



改善

